

# 令和元年第8回 昭島市教育委員会定例会議事録

日時：令和元年8月8日  
午後1時30分～午後5時25分  
場所：昭島市役所 市民ホール

昭島市教育委員会

○教育長（山下秀男） 皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから、令和元年昭島市教育委員会第8回定例会を開会いたします。

本日の日程は、お手元に配布のとおりであります。

それでは、早速ですが会議に入ります。

日程2、前回会議録の署名承認につきましては、既に調整を終え、署名もいただいておりますので、御了承願います。

次に、日程3、教育委員会会議規則第16条の規定に基づく、本日の会議録署名委員につきましては、2番の紅林委員と3番の石川委員でございます。よろしく願いたします。

次に、日程4、教育長の報告に移ります。

本日、二十四節気で立秋ということですが、猛暑日が続いております。小中学校の児童・生徒は、今月27日までの夏休み期間を過ごしておりますが、ここでちょうど折り返して後半期に入ります。これまでの間、事故もなく無事に過ごしており何よりであります。これからの期間も安全・無事に過ごして元気に始業式を迎えられるよう、引き続き、学校、家庭、地域における安全配慮の連携をお願いする次第であります。

本日は、2点報告がございます。初めに、8月は、教育委員会から市長部局に事業委託をしている形ですけれども、友好都市岩泉町の児童と、本市の児童による「小学生国内交流事業」の実施月となっております。まず、岩泉町の小学5年生、6年生の児童13名が、8月2日から8月5日までの4日間、本市を訪れたところであります。本市の小学5年生、6年生の児童13名と、児童の家庭でのホームステイを含め、昭島市民くじら祭への参加などを通して交流したところでございます。8月2日、岩泉町の子どもたちが着いてすぐの対面式では、双方の子どもたちが仲良く楽しく交流して、お互いに協力し合って、この夏休みの素敵な思い出をつくれるようにと、本市の子どもたちに対しては、岩泉町の子どもたちに昭島市のよいところをたくさん紹介してほしいということと、おもてなしの心をもって、岩泉町の子どもたちをサポートしてほしいということと、また、岩泉町の子どもたちに対しては、昭島市のよいところをたくさん知って、昭島市を好きになってもらえると嬉しいということとを私から伝えたところであります。今年参加した子どもたちも本当に元気で、8月5日のお別れの会の時ですが、子どもたちの笑顔を見ますと、よい交流ができたんだと、確信をしたところであります。今月、17日から20日までの4日間、今度は、本市の子どもたちが岩泉町を訪問する予定となっております。さらに交流が深められるよう、大いに期待をいたすところであります。

次に、「未来をひらく発表会」の開催についてであります。開催日時は、来月9月14日の土曜日、午後1時から、ここ市役所本庁舎1階の市民ホールを会場に開催予定となっております。当日は、「子どもの主張意見文コンクール」、「中学生英語スピーチコンテスト」という内容で行います。委員の皆様方にもぜひ子どもたちの発表を御覧いただきと思っております。よろしく願いたします。

私からの報告は以上でございます。

なお、教育委員会の名義使用承認につきましては、資料のとおり、1件となっております。

ただいまの報告に関して、御意見などございましたらお願いいたします。  
よろしいでしょうか。

それでは、以上で日程4を終わります。

次に日程5、議事に入りたいと存じますが、本日議案としております議案第13号「令和2年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について」は、審議に時間を要することから、議事進行を効率よく行うために報告事項3件について先に行った後、議案第13号の審議を行いたいと存じますが、いかがでございましょうか。よろしいですか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(山下秀男) よろしいということですので、本日は、議事の順序を変更して行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、報告事項(1)「令和元年度昭島市小学生英語チャレンジ体験事業及び昭島市中学生英語キャンプ事業の実施報告について」から、報告事項(3)「昭島市公民館主催事業について」は、資料配布のみとさせていただきます。

何かここで御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

○委員(白川宗昭) 昭島市公民館主催事業の中に、シッティングバレーという名称がありますけれども、ちょっと私はよく存じませんがシッティングバレーというものはどんなものなのか、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○市民会館・公民館長(吉村久実) シッティングバレーにつきましては座ったまま、お尻をつけたままで行う6人制のバレーボールになっております。コートの方々とネットの高さが違う以外は、通常のバレーボールと同じものになっております。ちなみに2020パラリンピックの正式種目になっている種目でございます。

○委員(白川宗昭) そうしますと、障害者のスポーツということですが大変よいことだと思いますけれども、スポーツ振興課でやるものではないんですか。これは公民館が行うということになっていきますけれども、いかがでしょうか。

○市民会館・公民館長(吉村久実) 元々この事業につきましては、生涯学習部の活性化プロジェクトの一つとして平成29年度に始めた事業になっております。生涯学習部、各課協力をさせていただいてこの一つの事業を実施しております。公民館が本市との打合せや会場の準備等を行い、スポーツ振興課においてはスポーツ推進委員の方に講座の事前協力や参加の呼びかけを行っていただく。図書館につきましては、そのパラリンピックに関する本を御用意いただいて、その場で御紹介しながら行動を実施するというものになっております。ちなみに平成29年度についてはボッチャの講座、平成30年度はゴールボールという講座を実施しております。以上でございます。

○委員(白川宗昭) ありがとうございます。よくわかりました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますでしょうか。

○委員（紅林由紀子） 報告事項1の英語チャレンジ体験キャンプの件なんですけれども、これは毎年何回か行われているものなので、実施した中身については把握しているんですが、今回参加された小学生、中学生の皆さんの様子がどんなだったのか、一緒に行かれた引率の方の声をちょっとお聞かせいただければというふうに思うのですがいかがでしょうか。

○庶務課長（加藤保之） 本年度の小学生英語チャレンジ体験事業、また、中学生英語キャンプ事業につきましては7月22日から24日の2泊3日で昨年と同様でございますが、調布市八ヶ岳少年の家に行っていました。参加人数は昭島市の小学生45名、中学生30名でございます。中学生につきましては東大和の生徒30名と一緒に行動いたしました。今年度は梅雨明け前ということでありまして天候の心配がありましたけれども、屋外の活動もちょうど雨が上がっている間に実施ができて、大きな病気等もなく全員が無事に授業を受講しております。また、参加した児童から取ったアンケートによりますと、このキャンプを通じて英語力がどういったふう伸びたと思いますかという質問につきましては、前よりも英語が話せるようになったとかAC、これはアメリカ人のリーダーの方ですけれども言っていることがよくわかるようになったとの回答が多く、また英語の聞き取りがよくなった、新しい単語をたくさん覚えた等の感想があり、ほとんどの参加者がすごく楽しかったという回答をいただいております。

本年度につきましては、そういった形で体験のほうを実施しております。以上でございます。

先ほど委員からお話がありました、初めてですけれどもこちらの事業のほうに私も引率として参加させていただきまして、児童生徒の生の楽しそうな姿を見てこの事業の意義、そういったものを感じたところでございます。

以上でございます。

○委員（氏井初枝） 関連してでございます。日程の中で異文化体験を2日間、1時間ずつこれから行っていくようすけれども、具体的にはどのような体験を子どもたちがしたのか教えていただけたらと思います。

○庶務課長（加藤保之） こちらの異文化体験につきましては、小学校、中学校別で行っておりますが、通じてアメリカでやっている遊びですとかゲームですとか、そういったものをいくつか分けてお店形式にして、いくつかの場所をつくって、そこでそれぞれのカウンセラーと体験をするような形でグループでの行動をしたというところでございます。また、この異文化体験のほうにつきましては、ダンスパーティーやキャンプファイヤーなどアメリカでやっているようなそういったプログラムを入れて行っております。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

それではこれもちまして報告事項を終了いたします。

それではここで暫時休憩をいたします。再開は5分後を目安とさせていただきますと思います。5分後ですから13時48分ごろということになりましょうか。ここで説明員は退席をして次は議案の関係の方が入室しますので退席をお願いいたします。

(暫時休憩)

(再開)

○教育長(山下秀男) それでは会議を再開いたします。

議案第13号「令和2年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について」を議題といたします。説明をお願いします。

○主任指導主事(長崎将幸) 議案第13号「令和2年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択」につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、来年度に使用する教科用図書について採択をお願いするものです。

初めに、小学校の通常の学級で使用する教科用図書でございますが、新学習指導要領全面実施に際しての教科用図書の採択となりますので、「昭島市立小学校及び中学校使用教科用図書採択要綱」に基づき校長、副校長、学識経験者、保護者代表からなる「昭島市立小学校教科用図書選定資料作成委員会」を設置し、調査研究部会において実施した調査研究を基に参考資料1としてお配りしております「令和2年度使用昭島市立小学校教科用図書選定資料作成委員会調査結果報告書」を作成し、提出していただきました。

また、市役所及び市民図書館において教科用図書の展示を行い、市民の皆様からあわせて30通の意見をいただきました。意見の内容につきましては、委員の皆様には事前に配布をさせていただいております。

これらの資料などを参考にいただき採択をお願いいたします。なお、本日は、小学校教科用図書選定資料作成委員会委員長及び調査研究部長である校長の皆様が出席しておりますので報告書の概要について御説明申し上げます。

次に、「特別の教科道徳」を除いた中学校の通常の学級で使用する教科用図書についてでございます。令和元年度は採択替えが行われる年度であります。現行の教科用図書からの内容の変更がないこと、令和3年度の新学習指導要領全面実施に伴い、令和2年度に改めて教科用図書の採択を実施するため、使用期間が1年であることから、参考資料2としてお配りしている平成27年度に教科用図書選定資料作成委員会が作成した「平成28年度使用教科用図書選定資料作成委員会調査結果報告書」に基づいて採択をお願いいたします。

続きまして、中学校の通常の学級における「特別の教科道徳」で使用する教科用図書でございますが、平成30年度に採択した教科用図書の使用期間が令和元年度から令和2年度の2年間であるため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定に基づき、令和元年度使用教科用図書と同一の教科用図書の採択をお願いいたします。

最後に特別支援学級で使用する教科用図書の採択について御説明いたします。学校教育法附則第9条の規定による教科用図書は毎年採択を行うことができるため、「特別支援学級使用教科用図書の採択に関する要綱」に基づき採択を実施する

ものです。固定制の特別支援学級設置校である共成小学校、つつじが丘小学校、田中小学校、富士見丘小学校、昭和中学校、多摩辺中学校、清泉中学校に設置しました特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会において調査研究を行い、提出された報告書を参考にして採択をお願いいたします。報告書は参考資料3となります。

なお、固定制の自閉症・情緒障害特別支援学級である富士見丘小学校と清泉中学校につきましては、通常の学級に準ずる教育課程を編成しているため、教科用図書につきましてはすべて、通常の学級と同一の教科用図書を使用するとの調査報告をいただいております。

本日は知的障害特別支援学級設置校の特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会の委員長である校長の皆様が出席しておりますので報告書について御説明申し上げます。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） 説明が終わりました。

ただいまの説明にありましたように、教科用図書選定資料作成委員会委員長及び調査研究部長、知的障害特別支援学級設置校の校長の皆様が出席していただいておりますので、初めに、出席していただいている校長の皆様へ各調査研究報告書の内容について報告を受けた後、質疑を行いたいと存じます。

それでは、小学校教科用図書選定資料作成委員の校長の御紹介をお願いします。

○主任指導主事（長崎将幸） それでは、本日出席の校長の皆様を御紹介いたします。

小学校教科用図書選定資料作成委員会委員長のつつじが丘小学校上田校長です。

○つつじが丘小学校校長（上田祥一） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） 続きまして、各調査研究部会の部長の御紹介をします。

国語・書写調査研究部長の富士見丘小学校、加賀田校長です。

○富士見丘小学校校長（加賀田真理） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） 社会・地図調査研究部長の田中小学校、土屋校長です。

○田中小学校校長（土屋正登） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） 算数調査研究部長の拝島第三小学校、小原校長です。

○拝島第三小学校校長（小原弘樹） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） 理科調査研究部長の拝島第一小学校、石川校長です。

○拝島第一小学校校長（石川博朗） よろしく願いいたします。

- 主任指導主事（長崎将幸） 生活調査研究部長の拝島第二小学校、小瀬校長です。
- 拝島第二小学校校長（小瀬和彦） よろしくお願ひいたします。
- 主任指導主事（長崎将幸） 音楽調査研究部長の東小学校、瀧島校長です。
- 東小学校校長（瀧島啓司） よろしくお願ひいたします。
- 主任指導主事（長崎将幸） 図画工作調査研究部長の玉川小学校、稲垣校長です。
- 玉川小学校校長（稲垣達也） よろしくお願ひいたします。
- 主任指導主事（長崎将幸） 家庭調査研究部長の共成小学校、佐伯校長です。
- 共成小学校校長（佐伯孝司） よろしくお願ひいたします。
- 主任指導主事（長崎将幸） 体育調査研究部長の光華小学校、鶴川校長です。
- 光華小学校校長（鶴川雅行） よろしくお願ひいたします。
- 主任指導主事（長崎将幸） 外国語調査研究部長の中神小学校、松井校長です。
- 中神小学校校長（松井 茂） よろしくお願ひいたします。
- 主任指導主事（長崎将幸） 道徳調査研究部長の成隣小学校、星野校長です。
- 成隣小学校校長（星野典靖） よろしくお願ひいたします。
- 主任指導主事（長崎将幸） 以上でございます。
- 教育長（山下秀男） 担当くださった校長の皆様には、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。
- それでは早速ですが、報告書の説明と質疑応答に入ります。小学校教科用図書選定資料作成委員会の経過について、委員長つつじが丘小学校上田校長より報告をお願ひいたします。
- つつじが丘小学校校長（上田祥一） 私からはこれまでの教科用図書選定資料作成委員会の経過と全体を通しての説明をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。
- 5月10日に第1回教科用図書選定資料作成委員会を開催し、採択事務や調査研究について確認をいたしました。5月13日の調査研究部会説明会の後、各小学校

に教科用図書の巡回展示をするとともに、各教科の調査研究部会において教科用図書の調査研究を行い、報告書の作成をいたしました。そして、7月11日に第2回、7月18日に第3回教科用図書選定資料作成委員会を行い、調査研究部会から調査研究の結果報告がございました。

調査研究項目は、「内容」と「構成上の工夫」に分けて、A3用紙1枚にまとめております。なお、市民からの意見につきましては、事務局から報告がございました。調査研究部会からの報告及び市民からの意見を参考に報告書について審議を行い、教科用図書選定資料選定資料作成委員会としての報告書を作成いたしました。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

それでは各教科の調査についての報告をお願いしたいと思います。なお質疑応答につきましては最後に一括して行うことでよろしいでしょうか。

それでは、初めに国語、書写の調査研究部長の加賀田校長お願いいたします。

○富士見丘小学校校長（加賀田真理） それでは、限られた時間ですので網羅的な説明が難しいので、特徴的内容に絞って重点的に説明させていただきたいと思っております。

まず国語です。内容①「発達段階に対する配慮」では1年生の冒頭、初めて国語と出会う入門期に着目いたしました。どの会社もさまざまな工夫がなされておりましたが次のような特徴がありました。

東書はリズムカルな言葉による音読に重点が置かれています。学図は入門期に文字と音節の関係を理解するために楽器のマークをつけるなどの工夫が見られます。教出は、第1教材で、児童の気づきから自然に言葉につながる工夫がなされています。光村の第一教材は、イラストの情報量が多いことが特徴となっています。

内容②「内容のおさえ方に対する配慮」では、主体的に学習する態度として大切な自らの学習を調整しようとするに関わる学習の振り返りに着目いたしました。各社とも学習の振り返りについては取り上げてやっております。

東書は、めあてと振り返りのページを設定し、強調するなど意識化しやすい工夫がありました。光村もチェックマークをつけることで意識を高められるような工夫がなされておりました。内容の昭島市の地域性に適しているかについては、ユニバーサルデザインや色使いに着目をいたしました。これについては、どの会社も書体や色使い、また紙面づくりなどに工夫がなされており配慮されておりました。

構成上の工夫②「各領域の分量に対する配慮」は各社とも適切な分量であると思っております。構成上の工夫④「全体の構成が見通せるような配慮」は、学習の大きな見通しを持つ場合にはシンプルなものがわかりやすいですが、より詳細に計画を立てる場合は情報が一定量あったほうがわかりやすいです。

目次についてみますと、東書と学図は3ページ、教出と光村は2ページになっています。また年間の学習については東書は2ページ、教出が3ページ、学図と光村が4ページとなっております。

構成上の工夫⑤、学習活動に対する配慮はQRコードなどに着目してみました。

東書は3年生から6年生に掲載されており55項目のうち動画はありませんでしたが音声教材が5つありました。学図は1年生から6年生に掲載されており、31項目のうち動画は2つでした。QRコードではありませんが、読書活動を単元化することなどが特徴としてあります。教出は1年から6年生にQRコードが掲載されており197項目のうち動画が10でした。ただし準備中が7つあり、調査の段階で実際に確認できたのは6つだけでした。教科書に掲載された作品の作者などについて特に105人の紹介があることが教出の特徴となっております。光村は1年生から6年生にQRコードが掲載されていて91項目のうち53が動画となっています。動画の扱いは最も多くなっています。

以上でございます。

○教育長(山下秀男) ありがとうございます。次に、書写の説明をお願いいたします。

○富士見丘小学校校長(加賀田真理) それでは続いて書写について御説明申し上げます。

こちらのほうも重点化を図ってのポイントを絞っての御説明をさせていただきます。

内容②の「内容のおさえ方に対する配慮」については、毛筆の筆の取扱いについて着目しております。東書については、名前と間隔の例示があります。学図については名前、学年、文字の中心線の例示がありました。教出は名前、学年、文字の中心線、間隔の例示があります。光村は学年、名前の例示があり、名前の文字数4文字名、5文字名、6文字名の3種類の文字数に合わせた間隔の例示があります。日文については名前と中心線と間隔の例示がございました。

内容③「強化の特質に即した要点や考え方等に対する配慮」は各社ともに形を整えて書くことや、国語や他教科との関連、日常生活での活用などを意識した内容となっています。

内容④「表記や表現に対する配慮」は、穂先を色分けしたり、姿勢や始筆送筆終筆について擬音を使ったりしてわかりやすく理解できるような工夫がどの会社も行われておりました。

内容⑤「昭島市の地域性に適しているか」についてはユニバーサルデザインの観点で検討いたしましたが、各社共にフォントや色使いでの配慮がなされておりました。

構成上の工夫④全体の構成が見通せるような配慮は、学習の進め方に着目をいたしました。シンプルな扱いで全体が見通せる工夫と詳細に示して詳しく理解できる工夫、考え方が別れているように思いました。段階の分け方が少ないほうから光村が3段階プラス振り返り、東書が5段階、日文が6段階、教出が7段階、学図が9段階に分かれています。

構成上の工夫⑤「学習活動に対する配慮」は、動画の視聴という観点で見ますと各社とも姿勢や筆づかい等についての動画の提供を行っております。提供の仕方は、東書、学図、教出、光村の4社がQRコードを使用し、日文は会社のホームページで視聴するやり方を採用しておりました。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。  
次に、社会の説明を土屋校長お願いいたします。

○田中小学校校長（土屋正登） 社会の説明をいたします。内容、構成、そして昭島採択の教科書ですので、昭島の子どもの実態、追究意欲をもってほしいということ、教員の実態、300人の中でそのうち37%が昭島採用ということで100名ちょっとが昭島で新規採用の教員です。そういう実態を踏まえて調査を進めました。

東京書籍、つかむ・調べる・まとめる・ひろげる、非常に明確でした。特徴的なのが、5年が上下分冊で6年生が歴史編、それから政治・国際というところが特徴的なところでした。他社は学年1冊でまとまっています。

教育出版、3年生の最初に生活科の違いはこういうところですよということで全学年の振り返りが丁寧にされていました。そしてこの時間の問いというのが毎時間ありまして、そして活動、次につなげようということで、追求意欲を向上させる上で有効であるという話が出ました。また、5年生が全員行っている八ヶ岳野辺山原のところが大きく、高原野菜を取り上げて畑を自分の目で確認できるということが話に出てきました。

日本文教出版です。来年度の指導要領の中で、見方、考え方このところが特に強調されて、それを時間、空間、関係、こういうような関係で特徴づけて教科書をつくっているということが特徴的でした。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。続けて、地図の説明を土屋校長お願いいたします。

○田中小学校校長（土屋正登） 地図2社です。東京書籍、巻末の資料が非常に充実している、そして資料集的なところで京都周辺の歴史に役立つ寺院の写真等が豊富で非常に社会科で役立つという話が出ていました。

帝国書院です。最初に160万分の1、17、18cmが250kmの大きな地図が出てきて非常に見やすい、そして命名された「エスクリクティウス・アキシマエンシス」、アキシマクジラ出土地、この辺が明確に出ているので、昭島の地域性、地図と子どもの距離感が非常に短く感じられる、そういう意見が多く出ました。

以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。  
それでは次に、算数の説明を小原校長お願いいたします。

○拝島第三小学校校長（小原弘樹） 算数の調査研究部会では、問題解決的な学習の流れになっているか、意見を交流することなど学びあいの学習になっているか、それから具体物を捜査する活動が十分に設定されているかという点を持って調査を進めてきました。どの教科書も新学習指導要領にのっとり大変工夫されていることがわかりました。

一覧表のほうを御覧ください。

内容①のところ です。東書からです。1年生の初期段階に特化したA4版の別

冊の教科書があります。算数ドロップを使い操作することで数え方、それから計算の基本を学習できるようになっています。ここが大きな特徴です。

それから大日本、こちらも内容の①のほうをご覧ください。全学年までのまとめを巻末に配置することで既習事項をいつでも振り返ることができるようになっているところが特徴であります。

続いて学図になります。こちらも内容の①になります。6年生では「中学校への架け橋」という別冊の教材が用意されていて中学校への接続をよく考えられています。

それから教出です。教出は内容の③になります。数学的な考え方を引き出す言葉や児童の気づきを促す引き出しが書かれていますので、児童にとってわかりやすい内容になっております。

続いて啓林館になります。内容の②です。内容の定着を図るために単元のまとめをたしかめよう、ふりかえろう、やってみようという3段階に設定されていますので、いつも学習の仕方が同じというところでメリットがあります。

最後に日文になります。内容⑤のところですが、単元前には「次の学習のために」というページが設定され、既習事項を確認してから単元の学習に入ることができます。ですから見通しを持って学習ができる教科書になっております。

以上になります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、理科の説明を石川校長お願いいたします。

○拝島第一小学校校長（石川博朗） それでは、理科につきまして調査結果の報告をさせていただきます。

検定本は6社あるわけですがけれども、信濃教育出版が作りしました「楽しい理科」の見本が届いておりません。これは主に長野県をターゲットにしてつくられている教科書なんですけれども、それについては、今回は調査は行っておりませんので御了解いただきたいというふうに思います。

また、すべての教科書が検定本ですので、ある一定レベルを超えてきているということで、同じ内容のところでは重複するところは今回の説明では省かせていただきたいなと思っているところです。

理科では、子どもたちの実態でいいますと、基礎・基本の定着というあたりに一つ課題があります。また昭島の地域性、特に理科は自然の事物・現象を対象にしていますのでそれと合致しているかという点、あと全国学力調査からの結果からは、見通しを持って観察実験する力がやや弱いのではないかなというところ、その辺を改善しているのに適しているような教科書という視点で検討をさせていただきます。

内容のほうで①「発達段階に対する配慮」ということで、既習事項をしっかりとおさえているかどうかという視点で見させていただきました。各社ともよくおさえているなと思います。また②「内容のおさえ方」ということで知識・技能の抑えとして確かめようとか、まとめというのを各単元の終わりにしっかりと設定をしています。

③「教科の特質」ということで理科は明らかに問題解決学習、そのものを扱っていく教科ですので、その問題解決の過程がしっかり取られているかというところでは、見方、考え方を今まで目標にしていたわけですが、今回ここで資質、能力のほうに目標が変わってきています。そういう意味で見方、考え方から資質、能力のほうに指導する側の認識を変えなきゃいけないということでその辺の扱いをどうするのかというところが書く教科書会社工夫してありました。東書、大日本、学図につきましては、その辺のことが書かれてありました。表記や表現については、ユニバーサルデザイン、UD ということで見せてもらいました。どこもきちっとそういう配慮がされていると思います。市の地域性というところでは、東京書籍は流れる水のはたらきのところで多摩川を扱っていたり、あるいは昭島の四季の移ろいと各学習時期と適合しているか、あとは入手しやすい教材であるかというあたりを見させていただいて、どこも問題はないなというふうに思いました。

構成上のところでは、まず①の「組織配列及び発展的な系統に対する配慮」ということで、見通しを持つことができるか、あるいは振り返り、リフレクションをしっかりできるかというあたりが、今度の学習指導要領のポイントになるところだったので、そういうところを見させていただきました。東京書籍は学んだことを使おうということで、きちんとそれをさらに発展させて活用、応用のほうまで話を持っていっているところが特色がありました。

②の分量についてですけれども、理科の教員6人で検討しましたが、大体10時間ぐらいの余裕はあるねということで、多少、自然の時期等によって時間がかかっても大丈夫だねということを確認をいたしました。教科の特質に即した主要教材、補助教材、さらに基礎的事項の取扱いというところで、それぞれかなりの紙幅を取って理科に関心興味を持てるような題材を入れておりました。

東京書籍については、教科書の後ろのほうに実験器具の扱いなども一覧としてまとめてあって、わかりやすいなと思ったところです。全体の構成が見渡せるということで、これは子どもサイドからしても大事なことなんですけれども、実は教師サイドにとって他教科とのカリキュラムマネジメントを組む上では非常に有効な掲載になったかなと思っております。

学習活動に対する配慮ということで、理科は安全が第一なので、まず実験、観察の安全、器具等の扱いなどきちんと書いているかという所を見させてもらいました。どの教科書も大丈夫です。

理科の場合は、自然の事物、現象を対象とするということで実はデジタルコンテンツ、映像とか画像とかが重視されます。それがかなりの部分、QRコードであったりアイコンであったりというところで各教科書から入っていけるような形になっています。この次、採択をするような時には、デジタルコンテンツもあわせて考えていかなきゃいけないような時代になってくるんじゃないかなというふうに考えました。

一番最後、備考のところでは、東京書籍はA4版、今までにない一番大きな形を出してきました。ほかの各社はA4版よりもちょっと短め、高さのないやつを出しています。重さは大体200グラムです。大型化してどうだったかという、実は重さ的には10%軽量化している、どこの会社もそういう感じです。実際

に机に並べてみましたが、学習の邪魔になっているようなこともなくまた広げたときの情報量があるものですから、見応えのある、読み応えのある教科書に仕上がっているなどというふうに思いました。プログラミング学習については全部の教科書で6年の電気の発展として入っています。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。  
次に生活の説明を小瀬校長お願いいたします。

○拝島第二小学校校長（小瀬和彦） それでは生活科の内容について報告します。

まず、生活科、各社に共通しているポイントについて説明します。次に7社について、各社特徴的なところに焦点を当て説明をさせていただきます。

まず、7社に共通している生活科の教科用図書のポイントは3点ございます。第1点は、報告書の内容の①の欄を見ていただくとおわかりになるように、幼稚園、保育所、小学校教育との円滑な接続の観点から、スタートカリキュラムや幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が明確に位置づけられております。

第2点は、何を何のためにどのような自由度で学ぶのか、学ぶ目的、内容、学ぶプロセス、学習過程が明確になっています。

第3点は、写真やイラストが見やすく表記や表現が配慮されておりユニバーサルデザインとなっております。

以上が共通した教科用図書のポイントでございます。

続きまして、各社の特徴的な点について説明します。

まず「新しい生活」東書ですが、内容②小单元名・めあて・学びのプロセス、3本の柱である知識、技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力の資質能力が吹き出しとイラストで明示されています。

次に、「たのしいせいかつ」大日本は、構成上の工夫①において、発展としても活用できる「がくしゅうどうぐばこ」が巻末に掲載され、個々の単元に組み替えができるよう配慮されております。

「みんなとまなぶしょうがっこうせいかつ」学図では内容については②、右端には活動のめあて、子どもの願いや思いが言葉で表現され、探検、栽培、飼育、成長の単元で構成されています。

「せいかつ」教出では、構成上の工夫③学びのポケットというコーナーがあり、各教科などの内容が整理されており、適宜それらの知識や技能を使えるよう設定されております。

「せいかつ」光村では内容の③全単元をホップ・ステップ・ジャンプの3段階で構成され、見通しが持てるようにしております。

「せいかつ」啓林館では、内容②単元の導入において、「わくわくの扉」「わくわくボックス」で構成され、何々してみたい、何々したいという児童の思いや願いが高められるように設定されています。

最後に、「わたしとせいかつ」日文では、構成上の工夫として⑤発達段階やその単元に応じて、見る、聞く、触れる、つくる、探す、育てるなど直接働きかける学習活動が示されておりました。

報告は以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、音楽の説明を瀧島校長お願いいたします。

○東小学校校長（瀧島啓司） 音楽は2社のみですので、ピックアップした項目について教育出版、教育芸術社の順に報告をさせていただきます。

まず内容の②です。教出の教科書は、リコーダーの運指表、指使いの表が見開き、観音開きというんでしょうか、になっているのでそれを開いたままいろいろなページの曲を学習する際に、その運指表を見ながら練習をすることができる、そのように配慮されています。

教芸のほうは、解説や例が児童同士の会話形式であったりキャラクターが登場したりと、親しみやすい構成となっています。

内容の③です。教出のほうはリコーダーの導入で、最初のページにリコーダーの穴の番号ですとか、手入れの仕方等その辺が詳しく書かれていないところちょっと残念だったかなというふうに感じられました。

教芸のほうは逆に導入のところでタンギングなど、大切なところをきちんとおさえてわかりやすく示されているように感じます。

内容⑤昭島市の特性ということですが、UDの観点から見ました。教出のほうは、色がはっきりしているんですが、ややきつい感じがします。また文字の情報量が多いように感じられました。

教芸のほうはシンプルで情報量もほどよいというふうに感じられました。

続いて構成上の工夫です。③について、教出のほうは共通教材があるんですが、その曲に合わせた写真が大きく掲載されていてイメージを持ちやすい、ただその縦書きの詩が楽譜とちょっと違うページ、次のページにわたって扱いつらい部分が多量あるかなという感じがします。

教芸のほうは図形楽譜が見やすくなっていて、情報量も適量で指導しやすい構成となっています。

④全体の構成ですが、教出のほうはQRコードが工夫されていてそのページにとんだ時に目次、一覧表のようになっているので、どの学年でも一覧表として見通しが持てるような、そんな工夫がされています。

教芸のほうは教科書の巻頭に1年間の学びの内容が地図のように示されていて、そこで見通しを持つことができるようになっています。

⑤です。音楽づくりという点で、教出のほうはとても自由度が高いものが扱われています。ただ実際の指導や評価の際に教員側の高度な技術、知見が求められる内容となっています。

教芸のほうは例示がわかりやすく、見通しを持って子どもが主体的に学習に取り組めるような内容となっております。

最後に備考です。教出のほうは巻末の曲が多く音楽専科としては扱いやすい、いろんな曲が選べる特徴があります。ただ3年生以上の教科書が大きくなっているのがかえって扱いづらかなという印象を受けました。

教芸のほうは来年度だけになってしまわないようにしなければいけないんですが、オリンピック・パラリンピックに関連したページがあるのが特徴となってい

ます。

音楽は以上となります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、図画工作の説明を稲垣校長お願いいたします。

○玉川小学校校長（稲垣達也） 図画・工作部会では、開隆堂出版と日本文教出版の2社を対象に内容と構成による工夫について、30項目を比較して調査結果をまとめました。

総じて2社ともに、すべての項目について工夫や配慮が見られ、本市で使用する教科用図書として、いずれもふさわしい内容と思われます。その中でも2社の特色が見られる点について大きく2つ報告をします。

1点目は内容のおさえ方に対する配慮についてです、開隆堂では各題材ごとに学習のめあてで、「何々しよう」と児童の目線でねらいを3つ示し、重点目標は、下線と色分けで強調しています。さらに重点目標と対になってキャラクターが学習のヒントを投げかけています。末尾の振り返りは、「何々かな」という表現で児童が自己評価できるようにしています。

日文では、学習のめあてで「何々する」と目標を3つ示し、各題材のリード文やキャラクターが児童の目線で「何々しよう」とヒントを伝えたり、児童の発見を認めたりする言葉がけをしています。末尾の「活動のあとで」では、「何々だね」と児童が学びを振り返り、次の学びに向かう力を高める工夫をしています。

2点目です。教科の特質に即した要点や考え方、表記や表現、分量について御報告をします。開隆堂では、児童が主体的に課題をつかみ、創造活動を楽しみながら自由な発想で取り組めるように工夫されています。そのために文字数や説明が多すぎず、鮮明な情景写真や作品名とともに、文字の大きさ、色、字体、ゆとりのあるレイアウトなどに特徴があります。説明しすぎないということが児童の自由で豊かな発想を引き出そうとする配慮と言えます。

一方、日文ですが、学習活動の参考となるようにきめ細かく丁寧な紙面で、すべての児童が取り組みやすいように工夫がされています。そのために実際の授業を撮影した情景写真や作品を多く掲載し、学ぶ子どもたちの姿を通して学びのプロセスや発想、工夫がつかみやすいように構成されています。そのことは指導者が教科書をそのまま活用し、教科書に沿った授業が展開しやすい配慮とも言えます。

以上で図画工作の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、家庭の説明を佐伯校長お願いいたします。

○共成小学校校長（佐伯孝司） 家庭科部会では、主に2つの視点を持って調査をいたしました。第1に実践的、体験的な活動の充実ということが家庭科で大事だと考えました。特に実習での安全面への配慮、実生活とのつながりを持たせた学習というところを考えております。

第2には見通しを持った学習というところです。家庭科は5年生で初めて学習をして、2年間で115時間という限られた授業時数で学習を進めます。全体の見通し、書く単元の見通しということをお大切にし、内容的にも視覚的にも捉えやすく、学習をより主体的に進められるようにというふうに考えたところです。

委員の受け止めとしては、2社ともに新学習指導要領の趣旨を踏まえて非常に学習活動を進めやすく工夫させているというふうに受け止めております。

それでは報告書を基に、4つの観点に絞らせていただいて御説明申し上げます。まず内容の①です。東書のほうは、非常に2年間の学習の見通しを持ちやすい、入門期の5年生にとって見通しを持ちやすい目次になっているということです。どのように学習を進めていくのか、よく整理されていて、他教科との関連も想起しやすい。4年生までどのようなことを学んできたのかということも想起しやすいようになっています。開隆堂のほうは「安全に実習しよう」というページが見開きで最初のところにもうけられていて、入門期から安全面への配慮について配慮されていると考えます。

2点目に内容の③です。東書のほうは、A4版であるというメリットを生かして非常に見開きページの中に情報が整理されているというふうに考えています。わかりやすい画像、イラスト、関連の資料などが見開きの中で確認ができるようになっています。開隆堂につきましては、生活の見方、考え方という4つの視点が常に大事にされ、クローバーのキャラクターなどで意識がされやすいように配慮されています。

次に、構成上の工夫の①でございます。どちらの会社も3つのステップで学習するということには変わりなく、非常に学習のサイクルがわかりやすくなっています。特に、東京書籍のほうはステップが単元ごとに明示されている。また単元の初めのところで、見方、考え方の視点、あるいはめあてというものもあわせて明示されていて、学習の見通しが非常に持ちやすい構成になっています。開隆堂のほうは、やはり3段階で学習の流れが繰り返されていて、学び方を学ぶというところにも配慮された構成が非常に意識されているところです。

構成上の工夫の③でございます。東京書籍のほうは、巻末に基礎的な技能について画像を大きく取り上げ、視覚的にわかりやすくまとめられています。実践的な活動について非常に使いやすいものというふうに考えます。開隆堂のほうは、基礎的な事項について単元ごとに記載されているとともに、裏表紙の所にまとめて切り方などが写真で掲載されていて、非常に興味関心を持ちやすく実践的であるというふうに捉えました。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、体育の説明を鶴川校長お願いいたします。

○光華小学校校長（鶴川雅行） はい、よろしくお願ひいたします。体育であります、保健の教科書ということで保健部会のほうの報告をさせていただきます。

保健の学習は、基本的にそれぞれの子どもの生活、自分の生活を見直すことから課題となることを見つけて、その課題をどう解決していくか調べ学んでいく、

最終的に実践をしていくということが大切な学習になっています。そういう観点で見えてまいりましたが、5社の教科書に関して問題解決型の学習ができるように、よくできているようにということが委員の感想であります。

その中で各社、特徴がありましたのでこのあとその各社の特徴について御報告させていただきます。

まず、新しい保健、東京書籍です。内容の⑤地域性に適しているかということです。特に、安全マークについての取扱いがこの教科書には載っておりました。安全マークは生活指導でありますとか、総合の学習で使っていることが多いのですが、保健の中で位置づけるということで大変いい取組みになっているなど思いました。それから構成上の工夫⑤学習活動に対する配慮ということで、学習のステップが④ステップに細分化されています。まず、気づく、見つめる、調べる、解決する、深める、伝える、まとめ、生かすと、大変子どもたちが学習において見通しを持ちやすいような工夫がされているように感じました。

「たのしい保健」大日本書籍ですけれども、こちらのほうは構成上の工夫になります。①特に発展的な系統に対する配慮ということで、3年生の教科書では高学年の内容にも、きちんとこういう学習につながるようにというコメントが載っていて、非常に将来の学習の見通しを持ちやすいなという特徴がありました。

また、構成上の工夫の⑤「学習活動に対する配慮」ですけれども、3・4年生の最後のページにシールがついていて、子どもたちが興味関心を深めて確実に学習したということがわかることがあるように思いました。

それから「わたしたちの保健」文教社ですけれども、これにおいては内容③「教科の特質に即した要点、考え方に対する配慮」ということで、先ほども申し上げましたが、自分の生活を振り返ったり、自分にできることは何か考えるということとは特に詳しく載っておりますので、この問題解決については意識されているように思いました。それから内容⑤「地域制に適しているか」ということですけれども、これについても地域の防災について載っていました。特に自助、共助、控除というあたりを具体的に出して、防災に関してどのように考えていったらいいかということがきちんと話されているのが特徴的でした。

「小学保健」、光文社です。これに関しては、構成上の工夫の①「発展的な系統に対する配慮」ですけれども、特に、広げよう、深めようという部分で、スマートフォンやタブレットの使い方などについても触れておりました。現在の課題に寄り添っているなど感じました。それから構成上の工夫の③教科の特質に即しということですが、QRコードがきちんと載っていて、その学習したところでQRコードを使ってタブレット等で視覚的に学ぶという工夫がなされていたと思います。

最後に「みんなの保健」、学研でありますけれども、校正上の工夫の④「全体の構成が見通せるような配慮」ということですが、目次が見開き①ページで他学年の内容も掲載してありました。また単元の見通しも1時間の見通しが明確であったと思います。それから⑤学習活動に対する配慮ということですが、非常に丁寧な説明がどの部分にもなされていますので、子どもたちが調べるという部分においては学ぶための資料が充実しているというふうに感じました。

以上で報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、外国語の説明を松井校長お願いいたします。

○中神小学校校長（松井 茂） それでは外国語の教科書について報告をさせていただきます。

外国語の教科書は7社ございます。まず共通していることといたしましては、3・4年生で外国語活動の学習をしていることから、3・4年生で学んだ単語や表現からの導入などに配慮していること、また小学校での思い出、中学校生活、部活のこと、また将来のことなどを取り入れた活動を入れるなど中学校への接続についても配慮して作成されております。

次に、外国語を使ってコミュニケーションをすることを楽しめるようにということで、歌を歌ったりダンスをしたりするように、音楽に合わせた表現、身近にある者や場面での会話など工夫されていることが挙げられます。また、どの子にもわかるようなユニバーサルデザインがQRコードもつけられております。

それでは、それぞれ教科書について各社1つずつ特徴的なところを報告をさせていただきます。

東京書籍では、内容の③巻末にコミュニケーションカードがございまして、それを使うことで子どもたちがコミュニケーションをしやすいようにつくられております。また別冊として学習する単語や表現が載せてあり、活用しやすくなっております。

次に、開隆堂でございます。校正上の工夫④、CAN-DOリストが裏表紙にあり、学年のスタートからゴールまでを示すことで、どのような活動をしてどのような能力を身につけられるかが明示されております。

学校図書につきましては、内容②、リスニングをしながら絵と単語を線で結んだり簡単な筆記演習ができたりします。

三省堂につきましては、内容の③、Listen&Talk が毎時間設定されており何回も聞いて話すことができるようになっております。

教育出版につきましては内容の④、キーセンテンスが英語表記で穴埋めになっており、単語を変えながら話す練習ができるようになっております。

光村図書につきましては、内容③、各国の小学生による紹介動画あり、異文化理解につながるコラムやクイズがついております。

最後に啓林館、内容①、スモールトークで、既習表現、新しい構文や表現のやりとりを導入で取り上げております。

以上で外国語の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、道徳の説明を星野校長お願いいたします。

○成隣小学校校長（星野典靖） はい、よろしくお願ひいたします。道徳科は全部で8社ございました。道徳の時間の特質に合っているかどうかということと、やはり子どもが学ぶにあたって心を耕すことができるかどうか、そういう視点を大切に

ながら委員の皆様と検討をしまいいりました。では8社、順番に特徴のあるものを御紹介させていただきます。

東京書籍です。内容の①②③のところで深めています、わかりやすい言葉が内容項目についてわかりやすく書いてあったりとか、考えるポイント、ステップがしっかり示してある。それとテーマを示して見通しを持たせる、そういう子どもの学習の一助になるものが見られたという特徴があります。ただ、構成上のところの③④のところにありますように、オリエンテーションのページ、これは1年間の学習の見通しを最初に、道徳はこういうことを学ぶよというようなところをしっかりと充実して載せているということ、それと学期ごとにその学習のまとめ、そういうものがしっかり振り返られるようなものが巻末についているというのが特徴です。

学校図書です。こちらは別冊「まなび」がついています。その課題を、学習を別冊を通して行うようになっていたりとか、その学習を補填する形で8時間に抑えるコラムというものが載っているというのが特徴です。それと課題把握のための気づきということと、学習活動としての学びというその2冊構成での特徴とされています。

3番目の教出です。こちらのほうは内容の④のところにありますけれども、かなり直接的な表現が多いかなという印象でした。校正上の工夫③、スキルという言葉を使って実践的な態度を求める内容が多いという特徴がありました。最後⑤のところでは、やはり教科書に直接書き込めるということと、巻末に学びの記録があるということも特徴となっています。

光村図書です。内容①、他社よりも低学年から葛藤、議論する場面が設定されているという特徴がありました。写真とか挿絵が多くありますので、資料、教材の内容についての理解は問題ないのではないかなというところでは、校正上の工夫のところ、読みのつまずきが軽減されるように、文節が分かち書きで書いてあるという特徴もあります。

日文です。内容②③のところ、今日的な課題であったり、体現的、問題的な問題解決を促すページ、こちらのほうもかなり入っている内容です。それと昭島の地域性に近い自然であったり、そういう身の回りの環境に近いようなものが題材になっている教材があったということもここに載せてあります。あと学習内容に対する配慮、こちらのほうはオリエンテーションページがついているということと、別冊にノート「道徳ノート」がついているところが特徴です。

光文です。内容の③問いを持つ、考える、まとめる、広げる、そのステップを大事にしながらか展開をしている特徴があります。登場人物、こちらのほうがわかりやすいようにということで、初めに整理されている教材もありました。構成上の工夫のところの⑤のところですが、「学びの足あと」というものがあって振り返りができるということ、ただキャラクターがかなり発問とも取れるような文言が多く、そのあたりが子どもにとってどうなのかなという疑問が出ていました。

学研です。学習観点、内容の②のところですが、深めよう、考えようというところでまとめてあります。構成上の工夫の①生活科と他社に比べると関連性を強くした教材もあったかなという報告を受けております。

⑤のところでは、自分たちで考える手がかりとなるような内容を示している部分があるということで、やはりここは子どもが考えて心耕しているところを少し助けている内容かなと思います。

最後の、あかつきです。こちらの内容の②のところでは、教材文のあとに考えよう、話し合おうということで、その話し合おうということが教科書のほうに書かれているところです。それとこちらのほう、別冊ノートもついています。ただ別冊をつけている会社が3社ありますけれども、今、文部化学賞からも付属教材が出ていますし、東京都についても教材集が出ていると。いろいろと話題にされる材料が多い中で別冊をちゃんと活用できるかなという意見が委員の中から上がっていました。

あと、教科書の大きさでいうと、2社がA4サイズで一回り大きくなっていますが、特にこのサイズについては机の上に並べたところ、特にすべての会社が使い勝手は悪くないという評価をさせていただいております。

以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

各教科の調査研究部長の校長の皆さんからの説明が終わりました。ただいまの報告に関しまして、委員の皆様から御質問などございましたらここでお願いをいたします。いかがでしょうか。

○委員（氏井初枝） 各教科の御説明ありがとうございました。私のほうからは、QRコードについてお尋ねをさせていただきたいと思います。新しい教科用図書を押見してQRコードがたくさん出ていたので本当にびっくりいたしまして、新しい時代が来たのかななんて感じるぐらいでした。QRコード、すべてではないんですが私、見て、すごくわかりやすかったりとか子どもが興味関心を持ったりとか、繰り返し英語の発音などを聞いたりとか、すごくいい内容のものが多いなということを感じたんですけれども、これを授業の中でどのように使っていくのかなとすごく心配になりました。QRコードは発展的な学習または補足として扱うということになるのかなと思うんです。そうすると、おのずと家庭に帰ってからも見るということが想定されてQRコードが載っているかなと。そうした場合、御家庭によってはQRコードが見られるような端末がないとか、そういうような御家庭もあるでしょうし、そうすると今、いろいろ言われている教育格差ということがQRコードによってますます助長されてしまうという心配もあるのかなと、そこら辺は配慮が必要ではないかなと、いろいろQRコードに関して、わあ凄いいという気持ちと、ちょっと心配な気持ちとあります。とりあえず授業のほうではどんなふうにお使いになる御予定なのか、それから、そういうのがない御家庭についての、お子さんについての配慮等について、どなたでも結構ですので教えていただけたらと思います。

○つつじが丘小学校校長（上田祥一） それでは、今回の教科用図書では、各教科各社ともQRコードがたくさん入っておりますので、私のほうからお答えをしたいと思います。

今、学校では ICT の活用について積極的に進めるようになっておりますが、今年度昭島市では、この夏、全学校のパソコン室のパソコンがタブレット型パソコンに変わります。タブレット型パソコンが入りますと、それぞれがタブレットを持って学習を進めることができる状況が生まれるということです。先ほど話がありましたように、一斉授業の中で、パソコンに取り込んで QR コードから取り込んだ動画等、視覚的な支援をしながら一斉授業を進めることはもちろん可能なのですが、今回はタブレットが入りますので学習状況に応じて子どもによって視覚支援が必要な場合、その子のタブレットでその動画を再生したり視覚支援をすることで、その子の学びをサポートできるという環境が整うと思います。それによって、それぞれ個に応じた学習が期待できるのではないかというふうに考えております。また、子どもによって家庭によってさまざま環境が違うのではないかということですが、そのことについても今のようにタブレットというものを上手に学校で活用することによってサポートできるものと考えております。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにございますか。

○委員（氏井初枝） タブレットは、児童一人1台ということで確保されているものでしょうか。

○つつじが丘小学校校長（上田祥一） この夏入るタブレット型パソコンは、40台学校に入りますので、一クラス40名以内がほとんどだと思いますので一人一人に確保されております。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） それで今のこととはまた別のことなんですけれども、今回、新学習指導要領にあわせて教科書が新しくなったわけで、その中の主体的、対話的で深い学びということを実現するためにということで、結構、各教科書、話し合いといったところを教科書の中に活動として取り入れられているものがいろいろな教科で多いように感じたんですけれども、その中でも、例えば国語とか理科などで、いろいろ話し合いというのが設定されているところで、教科書によってはかなり話し合いの中身を具体的に例示されているというようなところもありましたし、反対に入口的なところでおさえ、あとは自由というか取り組んだ人たちが自由に話し合えるようなというような中身になっている教科書もあったように感じました。実際にお使いになる先生方にとって、そういう話し合い活動を子どもたちがしっかりできるようにするには、ある程度具体的に書かれているもののほうがいいのか、逆にあまりにも具体的に書かれていると、その内容に縛られて自由に話し合えなくなるんじゃないかというようなこととか、そのことについてはどのようにお考えなのかお聞かせいただきたいと思いました。

○教育長（山下秀男） 国語、理科ということでよろしいですか。

○富士見丘小学校校長（加賀田真理） やはり、話すこと、聞くこと、そして話し合いの系統があって指導するところなんですけれども、やはりある一定の型があったほうが指導についてはしやすい側面は確かにあると思います。ただ、それぞれの学校の特色とか児童の実態に応じて、やっぱり当然担任はアレンジをしながら授業をしているところなので、あまりにも細かいところまで書いてあると、逆に活動の縛りを受けてしまうというところもあると思います。そのバランスは非常に難しいところなんですけど、各社とも御苦勞をされながら工夫しているところだなというふうには思っております。

○委員（紅林由紀子） はい、ありがとうございます。

○教育長（山下秀男） 次、理科ということで石川校長お願いいたします。

○拝島第一小学校校長（石川博朗） 今、委員が御指摘のとおり、対話の事例がかなり具体的で、それがかえって子どもたちの考えを限定してしまう、あるいはおさえてしまう、縛ってしまうという懸念はあります。ただ取り上げ方によって、かえってそれによって子どもたちの思考が深まるという場合もあるだろうと思っています。要は、この教科書をどう使っていくかという指導者側の考え方なのかなと思っています。教科書だけで教えていって目の前の子どもたちにとってこの教科書はどう使われていくか、使っていくかというのは指導者が一番よくわかっているのだから、その都度、その都度、工夫していけばいいのかなと思っています。やっぱり指導者が、対話というのは思考を深めるための一つの手段だというふうに考えておかないといけないだろうと思うし、子どもたちにとっては、対話する他者と関わることによって、思考が深まって楽しいなとか、いいなと思えるような、そういうような人ができることを願っているわけなんです。やっぱり教科書は教科書として一つの手段であるというふうに考えたほうがいいのかと思っています。

○教育長（山下秀男） 紅林委員、よろしいですか。

○委員（紅林由紀子） はい、わかりました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。白川委員。

○委員（白川宗昭） 全体に本当にこういう資料を作成していただいた皆様方に感謝を申し上げます。私のほうから社会科について、社会科の6年生でございますけれども、この6年生だけ一つの東書ですけれども、歴史と政治国際という2分冊になっています。ほかの会社は皆、上下で来ている、他の会社もそうですけど、これだけちょっと特徴的だなというふうに思っておりますけれども、非常に一つ一つについては細かく書いてあっていいのかなとも思うんですが、先生方に見てみますと、指導要領の改訂で順番も変わっているということもありますし、その辺の使い勝手はいかがなものでしょうか。お聞かせいただきたいと思

います。

○教育長（山下秀男） 土屋校長、よろしいですか。

○田中小学校校長（土屋正登） 今の使い勝手というところで、来年順番が変わります。今まで歴史を70時間程度勉強して、そのあと政治が16時間程度、国際が19時間程度、来年度から政治が最初に来てその後歴史が来て国際、歴史をサンドウィッチにします。そうした場合、政治国際の教科書を、例えば4月、5月に使いますね。そこが終わりました、じゃあこれ教科書また来年使うから大事に家でなくさないでちゃんと取っておけよという話で、それで歴史を70時間やって、年が明けました。じゃあ1学期、4月、5月やった政治国際の分冊の教科書を明日から持ってくるように、先生、ちょっと見あたらないんですけどというようなことも危惧して、調査部会においては学校で管理するのかなとか、家庭ですのかなという部分で、構成上のところは非常にわかりやすいなと思うんですが、使い勝手というところ、管理を含めた中では意見が結構出た部分です。以上です。

○委員（白川宗昭） ありがとうございます。わかりました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。石川委員。

○委員（石川隆俊） 人が生き物として健康に生きることを教える部分が理科と保健体育のところであります。特に理科のほうでは、3年で骨格筋の構造から、4年ではいわゆる精子と卵子の受精から始まり、子宮内の子どもの詳しい絵などが出ています。6年になりますといろんな内臓の働きとか病気についても出てきて、本によっては非常に大きな人体構造図が出ています。一方、保健のほうでは、これは心の不安とかあるいは交通事故の問題、病気のことも扱っていますし、特に4年になりますと思春期の性の問題を各社それぞれ多少濃淡がありますが扱っております。そんなふう健康というものを扱うのはほかにもあるかもしれませんが、多くはこの2教科だと思えます。それで私がただ伺いたいのは、時間も限られていると思えますし、健康のことを教えるのは非常に大事だと思いますけれどもなかなか難しいんじゃないかと思えますが、先生方はどのように考えてこの分野をこれから教えていかれるかちょっとその辺のことを教えてください。

○教育長（山下秀男） 鵜川校長、お願いできますか。

○光華小学校校長（鵜川雅行） はい、ありがとうございます。保健の分野ですが、今お話いただいたんですけれども、3年生でまず生活習慣の見直しをしている場面があります。どんな生活がいいのかなということで、まず健康に暮らすには生活習慣が大事だよということを勉強します。4年生は新規のこともありますけれども、自分たちの健康な成長、成長ってどういうことなんだろうということを知識で捉えて自分たちに当てはめていくという勉強をしています。それから5年生に入ると心の健康についても学ぶようになっていきます。最後に6年生で病気のこと

について、メカニズムについて病原体があるとか、そういったことも勉強して、どうやったら防げるかというような勉強、こういう流れでつくっておりますので、その中で例えば原因となるものが飲酒であるとか喫煙も危ないよということも伝えてきますし、今後、中学校ではがん教育のほうも入ってきています。我々が話した中では小学校では特に取り上げられてはいませんが、そういったことを含めて子どもたち健康のことについて具体的に少しずつ自らを見直すことから始まって、いろんな知識を学んで、じゃあどういう生活をしていったらいいかということを考えていくような流れで学習していくといいのかなということ考えております。

○委員（石川隆俊） ちょっとよろしいですか。特に先ほど言い忘れたのは、いわゆる最近性的に早熟なような傾向もありまして、かなり小学校の3、4年ぐらいでもそういう性成熟の問題、あるいは性教育というのが必要なかと思うんですが、その辺はどう思われますか。

○光華小学校校長（鶴川雅行） 性に関する指導については別の冊子も出ていまして、配られているところで我々も研究しているところであります。以前は養護教諭なんかが入って指導もしてきておりましたので、その辺も交えて含めて今までもやっておりますけれどもあわせて指導していくというふうに考えています。

○教育長（山下秀男） 理科のところはどうでしょう。石川校長、お願いいたします。

○拝島第一小学校校長（石川博朗） 委員のおっしゃるとおり健康に関する体のつくりとか発生とか、あるいは感情というあたりを理科では扱っていきます。やはり正しい知識をきちっと身につけていくことがまず一つ狙いとしてありますけれども、そのことだけで理科の指導を行っているわけではなくて、今度の学習指導要領の学びに向かう力、人間性というところで生物を愛護する態度であったり、生命を尊重するという気持ちと、そういうものを合わせて子どもたち飼育栽培の活動とかあるいは体のつくりの実験とか、調査とか、そういうものを繰り返しながら、実は健康に対する積極的に健康に関わろうとする態度であったり、粘り強く生命を尊重して自分の体を大事にしていこうと書いてあったり、ほかの人と関わりながら、ほかの人の体を健康を心配しながら生きていこうという心であったり、そういうものを同時に育てているんだと思いますし、今現在も現場ではそういう指導をしていると思っております。

○委員（石川隆俊） ありがとうございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにもございますか。  
氏井委員。

○委員（氏井初枝） 保健のことにしてお尋ねいたします。私、最近テレビの教育番組で複数の方の性的少数者と言われている方たちが子どもたちのころ非常に辛い日々

を送っていた、それは家庭だけではなくて学校においてもそういうようなとてもなんとも言えない気持ちで過ごしていた。例えば宿泊学習など入浴があるからもう宿泊学習には参加しなかったという話もそれで聞きました。来年からの教科用図書の保健の中で、2社が性的少数者について触れているところがあるんです。一つの会社は5年生、もう一つは4年生なんですけれども、そういうようなことが教科書に取り上げられるようになったということはすごく画期的なことだと思うんです。新学習指導要領ではそれが小学校では触れていないので、多分発展的な学習の扱いになるのではないかなと思いますけれども、これは昭島の学校の子どもたちに使うということになった場合に、どのような子どもたちの実態、地域性などを考えて御意見が出たようでしたらお聞きしたいなと思っています。

○教育長（山下秀男） 鶴川校長、よろしいでしょうか。

○光華小学校校長（鶴川雅行） これに関しては今、人権教育のほうで人権課題として挙げられておりますので、どの学校でも取り扱っていくということがあると思います。そんなふうな話題もありました。ただ、現在東京都の学校でもこういう悩みを抱えているお子さんがいるということも聞いておりますので、やっぱり各学校でその状況に応じて保護者のほうからそういう話があるということをお聞きしますので、そういう場合には特に適切に指導していかなければいけないのではないかなということでも話題が上がっていました。

○教育長（山下秀男） よろしいですか、氏井委員。

○委員（氏井初枝） それ載っていたほうがいいのか載っていないほうがいいのか、そこら辺は保健だけの問題ではなくて、先ほどおっしゃったように人権教育の絡みとかいろいろな教科に関係することだと思うんですが、教科書で扱われているということに関しては何か御意見は出ましたでしょうか。

○光華小学校校長（鶴川雅行） 当然こういう話題は出てくるよねというところですね、委員のほうではそれを受けてやっていかなきゃいけない内容ですねということで皆、載ってくる時代だねという話をしたところです。覚悟はできていると思います。

○委員（氏井初枝） ありがとうございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにもございますでしょうか。  
白川委員。

○委員（白川宗昭） もう一つちょっとよろしいでしょうか。英語のほうでちょっとお伺いしたいと思いますけれども、英語のほうは7社あるわけですがけれども、その中の、この表で行くと一番上ですがけれども、東書だけがディクショナリーと言いますか、別冊のそういうものがついております。私なんかはこれはなかなか面白い

などと思って見ておったんですけれども、その辺について先生方の御意見、どんなかなということをお聞きしたいと思えますけれどもいかがでしょうか。

○教育長（山下秀男） 松井校長、よろしいでしょうか。

○中神小学校校長（松井 茂） それでは御報告します。別冊について授業の場面と教科書と別冊がリンクしていることもあって、理解を深めやすいかなということとか、あと教科書を開きながら別冊を開くことで、例えば単語を見ながらそれを書き写す作業がしやすいとか、そういうふうな意見が出ておりました。また別冊だけを活用して自学自習ができるかなというような話も出ておりました。以上です。

○委員（白川宗昭） 別冊だけで授業もできるということですか。

○中神小学校校長（松井 茂） 別冊だけで授業ということではなく、自学自習ができるかなということでもあります。

○委員（白川宗昭） わかりました。ありがとうございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 私も英語についてちょっとお伺いしたいんですけれども、今回初めて教科化されるということで3・4年生で外国語活動はしてきているという上でなんですけれども、やはり今回、書くということも少し入ってくるということで、お子さんによっては少し苦手意識というかそういうものを持ってしまうこともあるのかなというふうに想像してしまっただけなんですけれども、そういった中でなるべく苦手意識を持たずに楽しくコミュニケーションということを中心としているわけですから、楽しく教科としての英語を学んでいけるという意味で、どのようなことに配慮されている教科書がそういった点からはいいというふうに委員会の中では話が出ましたでしょうか。

○教育長（山下秀男） 松井校長、もう一度お願いいたします。

○中神小学校校長（松井 茂） 報告します。5、6年生になるとやはり個人差も出てまいります。そういうことも考えながら今委員のほうから御指摘いただいたような、やはりどの子にもわかるとかどの子も楽しくコミュニケーションができるというような配慮が必要かと思われまます。その上で、例えば英語表記だけではなく、そこにそこから推察できるような絵や写真、そういうものがあると、子どももこういう意味なんだなということがわかりやすいかなということ、そして一度にたくさんではなく、スモールステップで学習を進めていけるような配慮がなされていること。そしてやはり、まず耳から音を聞いてということが大切だと思いますので、そういう音楽や英語を聞きながら語句や表現をまず知っていくというような配慮をされているところがいいかなというふうに思われます。以上です。

○委員（紅林由紀子） ありがとうございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

よろしいですか。そうしましたら小学校教科用図書選定資料作成委員会の調査報告書の報告及び質疑がここで終了いたしました。

次に、特別支援学級の教科用図書選定資料作成委員会の調査報告書について、報告と質疑を行いたいと思います。知的障害特別支援学級設置校の校長の皆様は教科用図書選定資料作成委員会委員長として出席していただいておりますので御紹介をお願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） それでは特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会委員長の校長の皆様をご紹介します。

共成小学校長、佐伯校長です。

○共成小学校校長（佐伯孝司） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） つつじが丘小学校、上田校長です。

○つつじが丘小学校校長（上田祥一） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） 田中小学校、土屋校長です。

○田中小学校校長（土屋正登） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） 昭和中学校、中島校長です。

○昭和中学校校長（中島理智） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） 多摩辺中学校、相部校長です。

○多摩辺中学校校長（相部公太郎） よろしく願いいたします。

○主任指導主事（長崎将幸） 以上でございます。

○教育長（山下秀男） よろしく願いいたします。知的障害特別支援学級設置校の校長の皆様には改めて御礼を申し上げます。ありがとうございます。

それでは報告書の説明と質疑応答に入ります。なお質疑応答につきましては最後に一括して行うことといたしたいと思いますがよろしゅうございますか。

それでは最初に、小学校の特別支援学級設置校であります共成小学校佐伯校長から説明をお願いいたします。

○共成小学校校長（佐伯孝司） 共成小学校でございます。特別支援学級につきましては特に児童の実態に合った学習活動が進められるように配慮して選んだところでございます。一つひとつの教科書についての御説明は時間の都合上できませんが、右側にあります調査報告の所も御参照いただきながら見ていただければと思います。

特に4つの点について考えて選んだところです。まず第1にスモールステップで、できた、わかったという達成感を持つこと、特にできるようになるために頑張ろうという意欲につながるように、ステップが明確で一つひとつわかりやすくなっているものというものを選びました。

2点目ですが、日常生活での経験と結びつけやすい題材が選ばれていること、子どもたちの興味関心を学習活動に結びつける、あるいは自分の経験を元に理解をしよう、経験を踏まえて考えようという態度に結びつける、また学習後も生活で活用することを通して自信を持ちやすくするというようなことに繋げていきたいと考えているところです。

3点目は、モデルがわかりやすい、どのようなゴールを設定しているかというモデルがあることによって学習意欲が湧いてくる、あるいは成果が出たときに達成感を持ちやすい、つまづいたときに振り返りやすいというようなことになるといふふうに考えます。特に視覚的に捉えやすくなっている。視覚的にモデルが捉えやすくなっているものというのを考えております。

4点目が、自分から学ぶことができる。朝学習や家庭学習などでも自学自習も含め、進めやすいもの、それが学習習慣につながっていくといふふうに考えています。また活動を通して学んでいくということで主体的に学んでいくところが大きく影響があるといふふうに思って選んでおります。

検定本につきましては、通常の学級での交流及び共同学習、あるいは学習問題の的確さや問題解決のステップ練習問題の適切さなどについて考慮して選んでおります。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

それでは続いて、つつじが丘小学校、上田校長お願いいたします。

○つつじが丘小学校校長（上田祥一） つつじが丘小学校です。本校で一番重要と考えていることは、本校の特別支援学級の児童の実態、児童の実態に応じた内容のものを選ぶということです。本校の児童は、今年度32名が在籍、来年度はそれ以上の児童数になると考えられています。児童の障害の実態差や学力の差が大きく、個別指導計画との整合性、そして学年ごとの授業の計画性、系統性について考慮する必要がありました。

選定の視点は3つです。まず、視覚的にわかりやすく意欲をます内容であるということ。次に、学んだことが実生活で再現して生かすことができる内容になっていること。最後に学力の定着に向けて継続性があるということです。

1年生に関しては検定教科書を選定しています。これは入学する児童の特性、実態と合わせながら学習を進める必要があるためです。また2年生でも来年度に関しては検定教科書の選定をしております。これは、今の1年生の学習状況を見

て検定教科書で引き続き学ぶことが適切であると考えているからです。3年生以上の児童は学力に大きな差があり、個々に合わせた教科書が必要なため教科ごとに適したものを数種類選んでおります。

次に、教科ごとに簡単に説明をします。国語科は児童の実態に合わせて習熟度学習や個別学習を行っており、グループ学習では理科の3点に重点を置いて選定した教科書を活用いたします。物や言葉、言葉と気持ちをつなげることができるように挿絵などでイメージを広げ語彙を増やしていく。また、子どもたちがイメージしやすい日常生活を生かした読み物や説明文を読み、読む力をつける。ひらがな、カタカナ、漢字の学習について視覚的に捉え、スモールステップで学び、読み書きの力をつける。書写は、文字に関して書き順、形、バランスについて絵を使って丁寧に説明をしているものにししました。社会科は生活単元学習や総合の学習の時間に、地域調べや、仕事調べ学習を行うため、わかりやすく挿絵と記述で地図や仕事について解説しているものを選びました。地図に関しては検定教科書を使います。算数科は児童の実態に合わせて小グループ学習や個別学習を行い、個々に合わせたスモールステップの教科書を使用いたします。理科は生活単元学習において理科的な学習を行います。自然観察や化学実験など細かく解説している教科書を活用いたします。音楽は、1年生から3年生までと4年生から6年生までの2分割で学習を行い、検定教科書を使用いたします。図工科も同じく、1年生から3年生、4年生から6年生に分かれて図工の学習を行います。今年度より図工科が講師ではなくて担任が授業を行っております。その担任が授業を来年度も行うということで、来年度、担任が使用しやすい検定教科書を使用することに変更しています。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。続いて、田中小学校、土屋校長お願いいたします。

○田中小学校校長（土屋正登） 田中小学校です。現在田中小は18名の子どもがおります。そのうち、途中転学が11名、55%、中には6年生になって固定に転学してきた子もいます。逆にいうと7名の子どもが入学時から入っているということです。そういった実態を踏まえて、当然ですが1点目は子どもの実態に即したものの者、特に興味関心がずっと持ち続けられるもの、意欲ですね。これは一番特支の中で固定では大事なかなと思います。2点目、個別指導計画に沿ったものであること。3点目、学習の系統性、いろいろなところすべて子どもの実態を加味して、今までの教科書がどんな教科書を使ったのか、途中転学の子が多いので前任校でどんな教科書を1年からどういうふうに使ってきたのか全部調べ上げて、一人ひとり全部カルテ的なものを使っています。そういう中でどういうものがあるのか検討しました。特に例えば「レインボーことば絵じてん」。これは2000項目から出ていまして、ひらがなとか絵とか英単語、英語もやっていますので、そういうところで非常に子どもに興味を引きやすくなるかなということ、繰り返しますが、1番はやっぱりイラストとかいろんなもので目をひいて意欲を持続させる。その次が定着ということなんです。今日できても明日できるとは限らないんですね。そのところを繰り返し、繰り返しということは、飽きないように意欲が持てる教

科書をということで選定しました。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

続いて、昭和中学校、中島校長お願いいたします。

○昭和中学校校長（中島理智） それでは昭和中学校の調査結果について御報告させていただきます。本校では、教科用図書の系統性を重視し、検定本を使用することを基本としています。生徒個々の実態や習熟の開きなどにより検定本を使用するよりも、より教育効果が得られると思われる教科については検定本以外の教科用図書を選定しております。選定にあたっては、当然のことながら生徒の実態が第一ですけれども、1、興味関心を持って学習活動に取り組めるものであること。2、集中力の持続と学習習慣の定着につながるものであること。3、学習活動に系統性があり一、人ひとりが学ぶ喜びを実感し、達成感につながるものであること、これらを考慮し選定いたしました。以上で報告といたします。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。 続いて、多摩辺中学校、相部校長お願いいたします。

○多摩辺中学校校長（相部公太郎） 多摩辺中学校における調査結果の報告をいたします。本校では特別支援学校に通う一人ひとりの個別指導計画の目標と実態を踏まえ、自立の力を育成する上で学習に効果があるかどうか、この観点で調査をしました。具体的には内容及び構成に関して、次の3点に重点を置いて検討をいたしました。第一に学びやすさです。生徒が意欲関心が持続できる内容、構成になっているかという視点です。第二にわかりやすさです。さまざまな特性を持った生徒にとってわかりやすくまとめられているかという視点です。第三に実生活とのつながりです。学習したことと実生活がつながっている工夫がされているかという視点です。生徒が学びやすくわかりやすい実生活とのつながりに気づいていく、そして生徒が目をはかして学び、わかった、できた、学ぶって楽しい、面白い、このような実感を得られるかどうかこのような姿を想定して、適切な教材として教科用図書を選ばせていただきました。

詳しくは報告書を御覧いただければと思います。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。それでは特別支援学級の教科用図書選定資料作成委員会の調査報告につきまして、委員の皆様から御質問がありましたらここでお願いいたします。

○委員（氏井初枝） 御説明ありがとうございます。いずれの学校にいたしましても児童生徒の実態に応じて教科用図書を選んでいらっしゃるんだということがとてもよくわかりました。

1点お尋ねをいたします。特に算数とか数学に関してなんですけれども、検定済み教科書を使う場合に、例えば6年生のお子さんが3年生と書いてある教科書

を使うとかっていうそういう場合が出てまいりますよね。自分の学年でない他学年の教科書を使うということに関して、お子さんたちの様子というか、気持ちというか、そこら辺はいかがでしょうか。そういう自分の学年と違う下の学年のものを使うということに関していやだなと思ったりとか、思う子がいるんじゃないかなとちょっと心配になったものですからお尋ねをさせていただきました。

○教育長（山下秀男） この点に関していかがでしょうか。

○共成小学校校長（佐伯孝司） それでは共成小学校でございますが、算数の検定本、他学年のものを使用するということは現在も行っております。児童の受け止めとしては、やはり自分たちが、わかる、できる、というところにつながっていることから意欲的に学習をしているというふうに見ております。またこのことについては、児童それぞれと教員とがしっかりと話し合っ、自己理解を深めた上で学習に当たっていますので、特段の影響というのは見られておりません。保護者にも面談を通して理解を得て、家庭でも話していただくようにしております。以上でございます。

○委員（氏井初枝） きめ細かな対応をなさっていらっしゃるがよくわかって、安心いたしました。引き続きよろしく願いいたします。

○教育長（山下秀男） ほかにございますでしょうか。

○委員（紅林由紀子） 御説明ありがとうございました。本当に一人ひとりのお子さんに合わせて選んでいただいていると思いますので、その点に関しては何の不安もございませんが、一つお伺いしたいのは例えば図鑑とか辞典とか、結構ボリュームのある教材があると思うんですけれども、これはそのお子さんが教科書において使うということは、普通、検定教科書だとその教科書はその配布された子どもものになるわけなんです、こういった図鑑とかそういうものはどういった扱いになるのでしょうか。

○つつじが丘小学校校長（上田祥一） つつじが丘小学校上田です。本校でも図鑑関係、国語の図鑑だとか理科の図鑑だとか、さまざまな図鑑を使うんですけれどもボリュームは確かに多くて、主に学校の教室の中で保管をしながら必要に応じて見る、お子さんによっては学習したこととつながって図鑑で見たくなる子たちがいっぱいいて、常に近くにあって見られるような状況で使っている形です。授業の中で一斉に使うことももちろんございますが、それよりも子どもたちが自由に使って調べていくというような活用の仕方が実態としては多いように思います。

○委員（紅林由紀子） それでは、普通の教科書のようにランドセルに入れてそれを持って帰ったり持ってきたりとか、そういう感じの使い方ではないということですね。

○つつじが丘小学校校長（上田祥一） 本校ではそういう、図鑑関係は教室の中で使って

おります。

○委員（紅林由紀子） はい、わかりました。ありがとうございました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。白川委員。

○委員（白川宗昭） 本当にそれぞれの実情に応じて選ばれているなというのをひしひしと感じまして、皆様方の御努力に敬意を表するところであります。

たまたま見ておりましたけれども、例えば田中小学校かな、家庭科で「みんなのためのルールブック」って小さい本がありますけれども、ほかの家庭科の教科書と大分様相が違う内容なんですけれども、こういうものは副読本という形で使うのか、これだけで1年間かというようなところを一つ教えていただきたいと思えます。それから同じようなことですけれども、昭和中学校のやっぱり美術で心を癒やす曼荼羅塗り絵というものがあまして、これも大分塗り絵だけに集中して細かくたくさん載っているわけでそれに色を塗っていくということなんでしょうけど、これもそういう子どもたちに適している子どもがいるからこそこういうものが選ばれているんだと思うんですけれども、やっぱりほかのものとは大分様相が違うような気がするんですけれども、その辺の御意見をというか実態というかを聞かせていただければ幸いです。

○教育長（山下秀男） では、最初に土屋校長先生。

○田中小学校校長（土屋正登） 家庭科のルールブックですが、これは日常生活の常識と言いますか当たり前のところを当たり前にというところで、これは一つのマナー、常識というところで、家庭科は家庭科で児童のみで料理をつくらうとかいろんなことで発展をしていきます。だからこれはこれだけでということではなくてということですよ。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次、中島校長よろしいですか。

○昭和中学校校長（中島理智） 生徒の実態を見てみると、特に本校の場合は美術ですとか家庭科ですとか、芸術、あるいは作業的な部分に一生懸命集中しているお子さんが多いように思います。その中でこの美術については特に集中という部分で、大きな輪郭が書かれたものに、当然塗り絵のような、ここにも書いてあるとおりなんですけど、そこに自由に配色をしていくというようなところで、ただこの輪郭の中を何色で塗りなさいという本ではなくて、自由な発想をもって配色をしていくというふうなところで、広く情操の部分、芸術的な部分についても興味を持って美術の授業に取り組めるように工夫するための教科書だというふうに思っております。以上です。

○委員（白川宗昭） いわゆる個性を伸ばすと言いましょか、そういう長所を伸ばすというそういう意味でもって使われているという理解でよろしいんですか。

○昭和中学校校長（中島理智） 結構でございます。

○委員（白川宗昭） わかりました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 検定教科書以外のよく特別支援教育の中で扱われている「ゆっくりまなぶこのためのさんすう」とか「こくご」とか、そういうタイプの教科書、本がありますよね。そういうちょっと苦手な子に対して先ほど先生が御説明いただいたようにスモールステップでいろいろ操作をしながらわかりやすくということです。ずっと使われている大変優れた本なんだというふうに思うんですけども、とても見た目が地味と言いますか一色刷りで、ほかの検定教科書がどんどんきれいになって写真やイラストがたくさん載っていく中で、大変地味というか、そういう意味では少し先ほどお話しいただいたような興味関心を続けていくような仕掛けというか、そういうものが少し少ないように感じてしまうんですけども、こういう本を使って、実際、国語とか算数とかを教える場合に、そういうところを補うような何か工夫をされているのでしょうか。

○教育長（山下秀男） いかがですか。どなたからお答えをいただけますか。  
上田校長お願いいたします。

○つつじが丘小学校校長（上田祥一） 本校でもゆっくり学ぶこのための国語だとか算数だとか、特に今回絵でわかる簡単漢字 80 とか 160 とかあるんですけども、これは特別支援の子どもたちで使うだけではなくて、今外国籍のお子さんを使って非常に効果的だと言われている教科書なんです。そのくらいわかりやすさがとても特徴だと思います。このまま使うと、今、紅林委員からもお話がありましたように、ちょっと地味な、子どもにとってとっつきにくい所もあるので、教員はそれを元にやはり視覚的にもう少しわかりやすい資料を黒板に貼って、それからそちらのほうに繋げて練習するというような工夫をして授業を行っています。

○委員（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。

○教育長（山下秀男） ありがとうございました。ほかにございますか。

ございませんか。それでは、これで特別支援学級の教科用図書選定資料作成委員会の報告及び質疑を終了いたします。

このあと採択に関する審議に入りますので、校長の皆様にはここで御退席をいただきます。本日はまことにありがとうございました。

なお、ここで休憩を取りたいと思います。会議の再開は 10 分後の 15 時 49 分からといたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（休 憩）

(再 開)

○教育長（山下秀男） それでは会議を再開いたします。

初めに、小学校の教科用図書の採択を行います。小学校の教科用図書採択にあたりましては、委員の皆様から昭島市の児童にとってどのような教科用図書がふさわしいか御意見をいただきたいと思ひます。その際、事前にお配りしております市民の皆様からの御意見に対してもお願いいたします。そのあと、51教科13種目ごとに審議し採択を行ってまいります。採択については無記名で投票をしていただき、教科用図書の選定をしたいと思います。

このような進め方でよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長（山下秀男） 御異議がないようですので、その順序に従って進めてまいります。

それでは、小学校の教科用図書の採択にあたり昭島市の児童にとってどのような教科用図書がふさわしいか、あわせて市民の皆様からいただいた御意見について順番に御意見をいただきたいと思ひます。

委員の皆様から順番に御意見をお願いいたします。

○委員（紅林由紀子） それでは、私から発言させていただきます。私が考えました昭島市の児童にふさわしい教科書というものを考えました時に、やはり昭島市の子どもたちがどういふ子ども達なのかなということをもう一度思い起こして考えてみました。昭島市の子どもたちは、もちろんいろいろいますけれども、概ね素朴で明るく元気いっぱい、そして人懐こい子どもが多いのではないかなと思ひます。そして、とても勉強熱心な御家庭ももちろんありますけれども、多くは、子どもはのびのび好きなことを見つけて元気で生きていてほしいなというふうに思っている御家庭が多いのではないかなというふうに感じております。

そうした中で、私が今回の教科書を考えるにあたりまして考えましたのは3点ございます。

1点目は、やはり学校に入ってその1年のスタート時に、学校は楽しいな、勉強するのが楽しいな、というふうに思ってもらえるような教科書を選びたいというふうに考えました。45分間机に座って勉強するのが初めてという子ども達にとって、その中で教科書を使って楽しく苦手意識を持たずにスタートを切ってほしいというふうに考えました。具体的には、読みやすい、見やすいレイアウトとか文字の配置、そして写真やイラストといったもので、子どもたちを飽きさせずに惹きつけるようなもの、そして楽しく親しみやすい、わかりやすい教科書がよいのではないかなというふうに考えます。

2点目は、先ほど特別支援教育の教科書のこと、先生方の御説明にもありましたけれどもこれは全ての子ども達に当たると思ひますが、やはりスモールステップでわかりやすく、一つひとつヒントが適切に示されているような教科書がいいというふうに考えました。

そして3点目が、やはりこの昭島の自然、そして地域のとの関わりという昭島の子どもたちには大切にしていってほしいと思ひますので、そういったものがしっかり書かれているような教科書を選びたいというふうに考えました。

市民の方々からも御意見をたくさんいただきましてありがとうございます。大変高い関心を持っていただいたことに、本当に嬉しく感じました。その中でも、子どもと実際にふれ合っている現場の先生方が使いやすい教科書にしてくださいというふうな御意見をたくさんいただきましたこと、本当に励まされました。私も本当にそのとおりでというふうに感じております。

また同時に、その教科書を手にした子ども達の気持ちをなるべく大事にしたいというふうに考えて一冊一冊読ませていただきました。また、男女の性のことについても触れられている御意見がありましたけれども、私も同感で、男子は、女子はというふうに限定するような書き方ではなく、本当に個人差がいろいろあるんだよということをしっかりおさえている教科書にしたいというふうに考えております。

あと、三つ目といたしまして、道徳や社会科の教科用図書につきましては、やはり価値の押し付けや一部の事実の強調にならないようにしてくださいというふうな御意見をたくさんいただきましたが、それも私は本当にそのとおりでというふうに考えております。道徳においては、なるべく子どもたちがさまざまな考え方に触れられるようなつくりになっている教科用図書がいいと思いますし、また社会におきましては、歴史などについては、やはりいろいろな歴史の出来事にはさまざまな評価があつて、歴史観があつて、そういうものは時代によっていろいろ変わったりもいたしますので、その中で小学校の歴史なんて学べることはほんの入口にしか過ぎないと思っておりますので、そういった中で、内容というのは、その学び方とか考え方とか探索のしていき方とか、そういうことをしっかり教えて学んでいけるような教科書がいいんじゃないかなというふうに思っております。また社会科の授業などでは、新聞など何社かの新聞を読んだいろいろな考え方があるんだなということがすぐわかると思っておりますので、そういった授業もしていただければいいんじゃないかなというふうに考えております。

以上です。

○教育長（山下秀男） では次、石川委員いかがでしょうか。

○委員（石川隆俊） 昭島の児童といってももう最近では相当教育レベルも上がってきました、かなりさまざまな学童がいると思います。非常に高いところを狙える学童もおりますし、比較的それほど都内とは違って少しのんびりしている子もいるかもしれませんが、最近是非常にレベルが上がってきていますので、私は昭島の教科書というのはやっぱりある意味では、かなり教科書の中でもレベルが高い教科書もいいと思います。それでねらうことは違うんですけども、やっぱりこれからはかなり高いレベルの教科書、これをぜひ採用したいと思います。

○教育長（山下秀男） 市民の皆様からの御意見については感想をお持ちでしょうか。

○委員（石川隆俊） 広い意見をいただきまして大変ありがとうございます。私もざっと読ませていただきまして、当然、皆様が昭島の教育に対して関心を持っておられることについて敬意を表します。いろんな地域の問題はありますし、特に当時は

やっぱりいろんな基地なんかも近くにございまして、そういうふうな領土問題とか健康問題なんかも子ども達は関心を持っているかと思しますので、特に社会科なんかは、特に歴史問題、政治、国際問題なんかについても丁寧に扱った教科書がいいかなというふうに思います。

とにかく当市の子ども達は優れた教育を受けられるということが私はいつも思っております。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に氏井委員、いかがでしょうか。

○委員（氏井初枝） 昭島市の子どもたちにどのような教科書がふさわしいのかという私の考えを述べさせていただきます。

入学当初の子ども達は、全員がと言っているほど勉強が大好き、どんどんできるようになることが増えていって本当に学校も楽しい、授業も楽しいという子どもたち、そういう思いがだんだん残念ながら失せていってしまうというのが実情だとは思いますが、その入学した時のそういう勉強が楽しいんだという気持ちを、消えることなく6年間、主体的で深い学びができるようなそういう教科書が採択されたらすごくいいなというふうに思っております。

ゆとり教育の批判の声が高まっている中でも、検定のたびと言ってもいいほど教科書がだんだん大きくなり厚くなり、でも先ほどの校長先生のお話の中で大きくなったから重たくなったのではないということがわかって、ああそういうもんだなと私かと思いと違う部分があったんですけども、写真が取り入れられたりカラフルになったり、本当に子どもにとっては興味関心を持てるような教科書になってきているなというふうに思っています。

私は新しい教科書、教科用図書を見て、不易と流行というものを思い浮かべたんですけども、自分が現場にいた時に私が直接子どもたちと一緒に授業していた内容が今もたくさん盛り込まれていて、それは不易の部分でしょうし、国語で言えば、すばらしい文学教材が今もずっとあたりするとすごく嬉しくなったりするんですけども、そういう部分と、あと方や、流行の部分で、外国語活動が教科になったとか、QRコードがいろんなところに散りばめられているとか、プログラミングの扱いがあるとか、それ全部やっていると本当に一番土台となる基礎基本の定着ということが疎かになりはしないかなという心配も感じています。やっぱり学びの基礎基本というのは、これだけは絶対に昭島の子どもたちに定着させたいというものがあると思っていますので、それがきちんとおさえられるような扱いがされている教科書、ただしそれだけではなくて、今の世の中のニーズに応じた新しいものに関してもどんどんチャレンジしていかれるような、そういうつくりの教科書がいいのではないかなというふうに思っております。

若手の教員が増えてきていて、経験が浅い教員も教えやすいような教科書がいだらうということで、会社によってはすごく授業のヒントが豊富に織り込まれているものもあるんです。それは使い勝手がいいということもある、どなたでもそれを見ればそのとおりやれば授業ができるというようなつくりにはなっているとは思いますが、あまりそれが細く載ってしまうと、それぞれの指導者の裁量

の部分越来越少きて、ちょっと窮屈になってくるからということを考えています。

なので、市民の方の御意見もたくさん寄せられていた、現場の先生方の御意見を尊重していただきたいということがたくさん書かれていましたけれども、私も実際に子どもたちに日々接している先生方が本当にこの教科書で授業を行いたいというような教科書を選ぶことができたかなというふうに思っています。

保護者も関心を持って家庭の方でも一緒に学んでいってほしいというようなことも表明している教科書もいくつもありますけれども、保護者の方々の負担にならない程度に。でも今まで以上に関心を持って、子どもと一緒に御家庭でもそういう会話が増えたら嬉しいかなというふうに思っております。

以上です

○教育長（山下秀男） 白川委員、お願いします。

○委員（白川宗昭） 今、三先生方のほうから同じような内容で申し上げましたので、あえて重複いたしませんけれども、私も全体を見るにあたって、まず最初に1年生というか、最初のところはしっかりと見ようと思ひまして見てまいりました。というのは、やっぱり最初の出だしの4月になって子どもたちが、わあ面白いというふうにどれだけ興味が湧いてくれるか、そこが一番大事なかなと。それでうまくいかない、ずっといっちゃうんじゃないかなと、まずいふうにいっちゃうんじゃないかなと思ひまして、その辺の一番最初の導入の部分の大切さということに一つ着眼をいたしました。それからあとは先生方が申し上げていたことと全く同じですけれども、レイアウト、わかりやすさ、スモール学習とか、私も同じようなことを考えた次第で、そのようなことを一つ基本に置きながら採択をしていきたいと思っております。

氏井先生もおっしゃっていましたが、本当に先生方が使い勝手のいい教科書を選んでいただきたいという意見が13件ぐらいありましたでしょうか。非常に多いなというふうに思います。先生方に対する期待と言ひましようか、そういうものを市民の方々がお持ちなんだろうというふうに理解をいたしました。私もなるべく先生方、先ほどいろいろと説明がございましたけれども、そういうことに沿った形でしていきたいと、そんなふうに思っています。それから先生方も新しい先生方が大変多いということでもあります。その辺の配慮も我々教育委員会として、していかなければならないんじゃないかなと、進めやすいと言ひましようか、さりとてあまり情報が多ければ、あまり情報が盛り込まれているとそれはそれでまずいこともあるかと思ひます。そのへんの塩梅をよく見ながらやっていきたいというふうに思っています。

それから社会科とか道徳についても随分と市民の方から御意見をいただいておりますけれども、基本はやっぱりこういう意見もある、こういう意見もあるというふうに、いろんな意見が、主張と言ひましようか、書いてあるもののほうがいいんじゃないかなと。そして、子ども達に考えさせるということが私は大事じゃないかなと。特に高学年の社会科はそんなふうな部分が多いんじゃないかと思ひます。あるいはまた、神話とかについても、全部が事実ではないけれどもという言

い回しで入っているとか、そういうちょっとしたところが大事なのかなというふうにも思っているところでございます。

いずれにいたしましても、子どもたちが本当に素晴らしい教育が受けられる、その一つとして、教育そのものは、教科書をどう知るかではなくて教科書でどう知るかということだろうと思います。そのようなことを念頭に置きながら採択をしていきたいと思っております。以上です。

○教育長（山下秀男） 委員の皆様ありがとうございました。いずれにいたしましても、学校現場において、第一には子どもたちにとってどんな教科書がいいのか、あるいは教える側の教員の皆さんにとってどんな教科書がいいのか、それから新学習指導要領、昭島市教育振興基本計画の求めるもの、これを具現化していくためにどのような教科書が一番いいのか、ふさわしいのか。そうしたところをつぶさに捉えながら、より良い教科書の選択を行っていきたいという、委員の皆さんはそのような御意見だったと思います。

それでは、ここから順番に審議、採択を行ってまいります。

委員の皆様の御意見をお願いいたします。

○委員（氏井初枝） 新学習指導要領で目指されている、主体的な対話的で深い学びというのを実現するために、国語科では言語能力の向上というのがすごく大切になってくると思います。国語の教科書の中のそれぞれの単元で身につけさせたい力というのが明確になっている、そういう教科書がよろしいかなというふうに考えております。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。いかがですか。

○委員（白川宗昭） やっぱり国語も大変重要な教科でございまして、小学校1年生に入った時どんな感じで接していくのか、私は幼稚園なんかをやっていたものですから、幼稚園から小学校に上がるタイミングのところは、そして子どもたちはどんな気持ちを持つかなとか、そんなところに思いを抱くんです。そういう意味で最初の部分、最初を開いた時には、わあっというという夢のある、そういうものもいいんじゃないかなというふうに思いました。そういう意味では、光村さんとか、具体的に出していいのかどうかわかりませんが、東京書籍とか、その辺が最初のところ、うまくイラストでまとめていらっしゃるかなというふうな感じがいたしました。以上です。

○教育長（山下秀男） 御意見ございますか。

○委員（紅林由紀子） 国語力をつけるために、やはり読書もすごく重要だというふうに言われていますし、あと昭島もこれからの大きな図書館ができるわけですので、やはり読書活動へのいざないみたいなところがしっかりと書かれているような教科書がいいのではないかなというふうに、私は感じました。

それと先ほど氏井委員がおっしゃったように、その主体的対話的で深い学びを

実現するためという意味で、多くのいろいろな言語活動をさまざまなアプローチで取り入れて、子どもたちを飽きさせないような形、構成になっているような教科書がいいかというふうに私は感じました。

○教育長（山下秀男） 石川委員。

○委員（石川隆俊） やっぱり国語というのは、字を習ったり、そういう文章を習ったりすることもありますけれども、それをそこに出てくるお話を読むことによって知識が増えますし、それによって確かに紅林委員がおっしゃったように、図書館なんかに行って、さらにもっと読んでみようという気が起こるので、そういう意味では中に面白い話がたくさん出ているほうが私がいいかなと思います。

○教育長（山下秀男） ほかに御意見ございますか。それでは、国語の教科用図書につきまして、無記名で投票により決定したいと思います。

（投票）

○教育長（山下秀男） それでは投票の結果を事務局から報告をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 国語の投票結果をお知らせいたします。

東京書籍株式会社、1票。

学校図書株式会社、0票。

教育出版株式会社、0票。

光村図書出版株式会社、4票。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。国語につきましては、光村図書出版株式会社が多数のため、同社を採択いたします。

続いて、書写の教科用図書について審議、採択を行います。御意見のある委員の方はどうぞお願いいたします。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 書写についてはやはり初めてやるお子さんもたくさんいると思いますので、書き方、筆の運び方などが非常にわかりやすく、イラストや言葉遣いなどで、とにかくわかりやすく書かれているものもいいというふうに思いました。それと、光村図書さんは、腕の使い方とか書写体操など、机の上だけではなく身体全体を使って筆を運んでいく、書写をしていくというようなことで、そういうことまで配慮されて大切なことが書かれているので、私は光村図書さんがいいのではないかというふうに感じました。

○教育長（山下秀男） ほかに、御意見ございますか。

○委員（氏井初枝） ただいま、国語が光村に採択されました。それを受けまして、書写

の教科書というのは国語の教科書と関連している内容のものがかなりいろいろ出てくるので、書写も私は光村がいいかなというふうに考えています。

それから、それはかつて自分も3年生の書写の時、導入の、よく水書きなんかをやったりしていたんですけども、今それが低学年に下りてきてまして、用紙がついている教科書が実際は使いやすいかなというふうに思っております。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。ございませんね。

そうしましたら、書写の教科用図書につきまして、無記名投票により決定いたします。

（投 票）

○教育長（山下秀男） では投票の結果を事務局からお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 投票結果をお知らせいたします。

書写、東京書籍株式会社、0票。

学校図書株式会社、0票。

教育出版株式会社 0票。

光村図書出版株式会社、5票。

日本文教出版株式会社、0票。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま、投票結果の発表がありました。

書写につきましては、光村図書出版株式会社が多数のため、同社を採択いたします。

それでは続いて社会の教科用図書について、審議、採択をお願いいたします。無記名投票により決定してまいります。その前に委員の皆様の御意見をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 社会科の教科書につきましては、3社とも社会科を学んでいくという学びのステップみたいなものは3社ともとてもよくまとまっていいていいのではないかなというふうに思いました。ただ、本当に教科用図書、1ページ、1ページを読んでいくと、私は教育出版さんの教科書は、なるべく楽しく学んでほしいなというような、そういった雰囲気を感じました。それは、キャラクターの吹き出しの言葉だったり、構成だったり、そういうところでそういうものを感じたわけなんですけれども、あと教育書出版の教科用図書は3、4年生においては学習問題をつくり、学習の見通しを立てようという問題解決型のステップになっていますし、あと非常にスモールステップで、この時間の問いはこれ、そしてこういう活動をして、そして次がこういうふうにつなげようというふうに細かく設定がされているので、毎時毎時を子どもたちがちゃんと見通しを持って学んでいけるのではないかなというふうに感じました。それと生活科からの、3年生になった時は生活科でこういうことを学んだ、そしてそれを振り返ってこれからもこうい

うことを勉強するよといったような、見方、考え方がちゃんとおさえてありますし、あと今回学習指導要領で政治を学んでから歴史を学ぶわけなんですけれども、そのつながりが歴史を学ぶにあたって、政治で勉強した選挙制度の今と昔を比べていて、そこから歴史の学び方というところに入っていくという流れも非常にスムーズだなというふうに感じましたので、私は教育出版の教科書がいいのではないかなというふうに感じました。

○教育長（山下秀男） 石川委員、お願いいたします。

○委員（石川隆俊） 私は、おそらくここでは一番年上の人だと思うんですけども、戦争が終わった時に小学校に入りまして、それでちょうど6年のころにはもういろんな、当時、自衛隊というのがありまして、6年ぐらいになりますと、そういう自衛隊が、軍隊はどうだということを盛んに議論したことを覚えています。そんなこともあって、政治のことについて言いますと、やっぱり社会というのはもちろん歴史、地理も習いますけれども政治を習う一つの一番大事なところであります、そういう意味で早く大人になってもらって、そういうものに関心を持ってもらうという意味で大事な教科だと思います。特に当市は基地もひかえておりまして、自然にそういうことも念頭にありますので、私はそういう意味で、それにこだわるわけではありませんけれども、そういうことにも少し触れている教科書がいいかなと思います。

○教育長（山下秀男） 氏井委員、お願いいたします。

○委員（氏井初枝） スモールステップの学習ができるということが昭島の子どもたちの実態に合っているかなということを感じています。

それから、教育出版の教科書についてです。あとは昭島市の地域性ということ考えた際に、移動教室でどこの学校も八ヶ岳、野辺山のほうに行くということが決まったところで、そのことが触れられているということも教出はいいかなというふうに考えております。

○教育長（山下秀男） 白川委員、お願いいたします。

○委員（白川宗昭） すでに先生方いろいろお話がありましたけれども、冒頭に6年生の歴史と政治と国際が分かれているということでちょっと使いにくいというお話がありましたし、その辺は尊重したいなというふうに思います。

それから、いろんな資料がたくさん載って、教育出版も日文もそうですけれども結構資料がたくさん載っているわけなんですけれども、やっぱり適度なものがないんじゃないかなという考えが一つあります。

それから広げるというところで、非常に教育出版のほうですけれども、リサイクル都市、江戸なんていって、再利用、灰を買う、それから古傘を買うとか面白い話も結構載っておりますし生活に密着しておりますし、リサイクルというものについての学びもできるということもあるし、そういう内容が多岐にわたって

るという意味において、教育出版がいいかなというふうに思います。それから憲法とか、先ほど申しあげました神話とかというものについても、こういう考え方もある、こういう考え方もあるということをきちっと載せているという、細くは小学校の教科書ですから載せられないんだろーと思ひますし、そういうのがあるんだ、考へてみようというよな、そういう姿勢というのが大事なのかなというふうに思つた次第です。以上です

○教育長（山下秀男） それでは社会の教科用図書につきまして無記名投票お願いいたします。

（投 票）

○教育長（山下秀男） 投票結果を事務局からお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 社会科の結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、0票。

教育出版株式会社、5票。

日本文教出版株式会社、0票。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。社会につきましては、教育出版株式会社が多数のため、同社を採択いたします。

続いて、地図の教科用図書について、審議、採択を行います。委員の皆様の御意見をお願いいたします。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 帝国のほうか、昭島市とか東京都周辺の地図がすごく充実しているなということを感じました。それから、これは先生方の調査委員会のほうから出ている表に書かれていますけれども、地図上の文字が大きくて見やすいということ。それから何と言っても嬉しいのは、アキシマクジラが出土されたということが載っているということは昭島市の子ども達、とっても嬉しいのではないかなというふうに思ひます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

それでは地図の教科用図書につきまして無記名投票をお願いいたします。

（投 票）

○教育長（山下秀男） それでは投票の結果を事務局からお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 地図の採択結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、0票。

株式会社帝国書院、5票。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。地図につきましては株式会社帝国書院が多数のため、同社を採択いたします。

続いて算数の教科用図書について審議、採択を行います。委員の皆様のご意見を求めます。

○委員（白川宗昭） 私はよく1年生を見ているんですけども、1年生の入門のところが、東京書籍が分冊になっていまして非常にわかりやすい。幼稚園の子どもが接してもいいような、そんな形になっていまして、導入の部分がほかと違って素晴らしいというふうに私は思いました。

内容につきましても、非常に復習とか基礎的なものをしっかりおさえているなど、勉強するようなどころがおさえられているなどということ、いいなと思いました。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 白川委員がおっしゃったように1年の教科書を私も見たんですけども、やはり一番最初の大きな分冊は、いろいろな操作も入っていたり、実際にノートもいらず書き込めたり、というような点で、初めて算数を学ぶ子どもたちにとってはいいんじゃないかなというふうに思いました。と同時に、ほかの出版社の教科書も見たんですけども、結構1年生のところで、折り畳まれているのは広げるみたいな操作が必要な教科書が多くて、ちょっとそういうような操作は最初の時に、机の上に広がってしまったりなかなか開けられなかったりとか、そういうのもどうなのかなというふうに感じました。そういう操作がいらぬのは東京書籍と啓林館と、2社でしたので、そのどちらかがいいのかなというふうに感じました。

同時に東京書籍はきちんと数学的な考え方がステップできちんと構成されているというのと、あと、単元ごとに、単元に入る時に、左側に必ず関連する既習事項を振り返るような構成になっていて、これがすばらしくいいんじゃないかなというふうに思いました。やはり算数は積み上げていく教科なので、今までやった、これを使って振り返って、それを確認してから新しい教科に入るという構成が大変わかりやすくできているのでいいのではないかなというふうに思いました。

あと、発展の問題も充実していて、たくさん算数が得意でどんどん解けてしまうような子ども達は、そういう問題をチャレンジしてみるというような、そういうところも配慮されていていいのではないかなというふうに思いました。以上です。

○教育長（山下秀男） 石川委員。

○委員（石川隆俊） 私は、数学というのは何と言っても、理論的な思考力を高める大事な科目だと思います。特に5、6年あたりを私は見たんですけども、最近是非常に数学のレベルが上がってきて、各教科書も工夫して、例えば円の面積を求め

るのも随分工夫して示されていますが、やっぱり私は数学はレベルが高いのをやった方が中学校行く意欲に関係すると思いますし、いろいろ意見はあるでしょうけれども、少しレベルが高いわくわく算数、ゼロの概念なんかも出てきますし悪くないだろうというふうに思います。

○教育長（山下秀男） 氏井委員。

○委員（氏井初枝） 児童の発達段階に対する配慮ということでいうと、東書の先ほどから話題に出ている1年生の入門期の別冊がすごくいいなということを感じました。学図が、逆に上のほうの学年、6年生で「中学校への架け橋」という別冊が用意されているんですが、これも魅力的だなということを感じました。

それから、プログラミング教育に関してなんですけれども、2社は全学年で扱っていて、3社が5年生だけ、東書は5年と6年でという扱いになっていますけれども、ほどほどがいいのかなというのにならぬように感じております。

○教育長（山下秀男） わかりました。

それでは、無記名による算数の教科用図書につきまして無記名投票により決定していきたいと思っております。

（投 票）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の報告をお願いします。

○指導課長（吉成嘉彦） 算数の投票結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、4票。

大日本図書株式会社、0票。

学校図書株式会社、0票。

教育出版株式会社、0票。

株式会社新興出版社啓林館、1票。

日本文教出版株式会社、0票。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

算数につきましては、東京書籍株式会社が多数のため同社を採択いたします。

続いて、理科の教科用図書について、審議、採択を行います。委員の皆様の御意見をお願いいたします。

氏井委員、お願いします。

○委員（氏井初枝） 写真とかイラストがたくさん載っていて、視覚的にも興味関心を高められるということでは東書がいいのではないかなというふうに思います。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員(紅林由紀子) 一番最初の生活科から理科に変わっていくわけなんですけれども、理科の入り口のところで、こういうふうに理科は学ぶんですよという学び方が、各社載っているんですが、それが一番すっきりとしてわかりやすかったのは、私は大日本かなというふうに感じました。東京書籍は、しっかり書いているんですけどもちょっと複雑で、ステップが細いというか、そこで初めて理科を学ぶ子どもたちがちょっと面倒くさいなというふうに思わないかなというふうに感じました。

東京書籍は、非常に、A4版なので、先ほど氏井委員がおっしゃったように、図とか写真、イラストなども見やすく、そして実験などでは実験の作業の流れが非常にわかりやすいという意味ではとてもいいというふうに思ったんですけども、すっきりしていて理科を学んでいくためのステップがよく把握しやすいのは大日本かなというふうに思いました。そして、昆虫のシールとか、野外観察の観察シートとか、星座シートとか、そういった活動というか、実験とか活動とか、そういうものに対してのいろいろな仕掛けもあるのもいいかなと、楽しく学習できるかなというふうに感じました。細かくはなるんですけども、4年生で腕が動く仕組みというのが、筋肉が伸びたり縮んだりということを学ぶところで、ほかの出版社さんは図だったりということでそれを理解させようというふうな形になっているんですけども、大日本さんだけが、実際の模型をつかって、ゴムで腕の模型みたいなものを曲げると、どっちのゴムが縮んでどっちのゴムが伸びるみたいなふうな形で書いてあったのが、そういう実験をして自分でやってみて自分で確かめるといった、そういう姿勢がとてもいいかなというふうに私は感じました。

○教育長(山下秀男) 白川委員。

○委員(白川宗昭) 私も大日本と東書と、どっちかがいいなというふうには思っておりますけれども、東書については、多摩川を2カ所ぐらいに、題材として「流れる川の働き」というようなこと、それから6年でも「地球に生きる」ということで多摩川が載っております。自然を大事にするとか、そういうことについて多摩川を題材として話を進めているというのが、昭島にとっていいのではないかなという気が、地元のことを考えるきっかけになるんじゃないかなという意味においていいかなと思います。

大日本のほうは立川の防災館が載っているので、ちょっとこっちもいいかなと思いますけれども、昭島にとっては大切なかなというふうに思った次第です。

○教育長(山下秀男) 石川委員。

○委員(石川隆俊) 各社本当に努力して、イラスト・写真を使って説明しています。例えば先ほど話した、子宮の内部の胎児でも、こんなふうに絵を出しまして各社努力しています。その差は大したことはないですけども、とにかくいかにわかるかということで、例えばある会社は、例えばこんなふうに、人体模型を切り離してそれぞれ調べるとか、そんなものを出してしましてあらゆる努力をしています。それぞれ面白いんだけど、例えば東京書籍なんかもそういう意味では面

白い本だなというふうに思いました。

○教育長（山下秀男） よろしいですか。それでは理科の教科用図書について無記名投票をお願いいたします。

（投 票）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の報告をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 理科の結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、4 票。

大日本図書株式会社、1 票。

学校図書株式会社、0 票。

教育出版株式会社、0 票。

株式会社新興出版社・啓林館、0 票。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表が終わりました。

理科につきましては東京書籍株式会社が多数のため、同社を採択いたします。

続きまして、生活の教科用図書について審議、採択を行います。意見のある委員はお願いをいたします。

氏井委員。

○委員（氏井初枝） 児童の発達段階を考えた際に、どこの会社のものもスタートカリキュラムというのがきちっと位置づけられていますけれども、やはり大型の教科書ということで、東書は写真とか イラストがすごく大きいですし、学校生活の様子イメージが捉えやすいというところが魅力的かなということで、よろしいかと思えます。

○教育長（山下秀男） 白川委員。

○委員（白川宗昭） これは1年と2年ということでございますので、やっぱり幼稚園から、あるいは保育園から上がってきたお子さんが最初に見るものですので、そういう意味で最初の部分というのは大事にしたいと思います。そういう意味では、教育出版の導入部分が、一番子どもが飛びつくというか、そんなようなイラストになっておりますので、子どもの気持ちに沿っているなという感じがいたしますので、これがいいかなと今思っているところでございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。

○委員（紅林由紀子） 私は東京書籍か学校図書がいいかなというふうに思ったんですけども、やっぱり東京書籍の場合は何と言っても大きい写真、イラストが、非常に子どもの気持ちになったときにすごくワクワクするなという気持ちになります。

そして自然探しや季節の遊びが豊富に載っているのも昭島の子ども達に適しているのではないかなというふうにも感じました。あと、イラストの中に、子どもたちのイラストの中に、車椅子に乗っている子がいたり、肌の色が違う子がいたりするのも、これからの時代に即しているというような配慮がされているというのではないかなというふうにも感じました。

学校図書の場合は、非常にすっきりとしていて見やすいというのがあるんですけども、あと一つ、自然の観察の中で、冬の鳥ということで、鳥を載せているという、鳥として載せているというのが、昭島は自然が豊かで冬は野鳥観察にも非常に適しているところだと思いますので、そういうところを取り上げているのはいいなというふうにも感じました。

○教育長（山下秀男） いかがでしょうか。それでは無記名による投票を生活の教科用図書につきまして無記名投票をお願いしたいと思います。

（投 票）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の報告をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 生活科の結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、2票。

日本図書株式会社、0票。

学校図書株式会社、0票。

教育出版株式会社、3票。

光村図書出版株式会社、0票。

株式会社新興出版社・啓林館、0票。

日本文教出版株式会社、0票。

以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

生活につきましては、教育出版株式会社が多数のため同社を採択いたします。

続いて、音楽の教科用図書について審議、採択を行います。御意見のある委員の方、お願いいたします。

○委員（氏井初枝） 音楽の時間に学ぶ楽器として、低学年はピアノカというのが載っていて、3年生からリコーダーが入ります。ということで考えますと、リコーダーの扱いはとても丁寧で、リコーダーの押さえる穴にも番号がついていたりというのが、全員の子どもたちにきちんと指導しやすいのではないかなというふうにも感じます。教芸の教科書のことです。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（石川隆俊） 両方ともなかなかいいですけども、ちょっと、例えば芸術社のほうが、出ている曲が親しみやすいものがたくさんあると思います。使われている

曲がです。その程度です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですね。  
それでは、音楽の教科用図書につきまして無記名投票をお願いいたします。  
（投 票）

○教育長（山下秀男） それでは、投票結果の報告をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 音楽の結果を報告いたします。  
教育出版株式会社、0票。  
株式会社教育芸術社、5票。  
以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま、投票結果の発表がございました。  
音楽につきましては、株式会社教育芸術社が多数のため同社を採択いたします。  
続いて、図画工作の教科用図書につきまして審議、採択を行います。御意見のある委員の方、お願いいたします。

○委員（白川宗昭） ふたつ、2社ですけれども、大差がないなと思いましたけれども、開隆堂のほうは文字数とか説明が多すぎないというか、レイアウトが非常に工夫されているような感じがするんです。主観的といえば主観的なんですけれども、そういうようなことで。  
それからもう一つは、「平和と希望の願いを込めて」という5・6年のところですけれども、こちらは開隆堂が岡本太郎さんの絵を載せていると。日文のほうは、ピカソのゲルニカが載っているということなんですけれども、私は、ピカソは有名かもしれないけれども、日本の岡本太郎さんの原爆の瞬間という、その絵が載っているほうが私はいいかなというふうに思った次第です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（氏井初枝） 新学習指導要領で、鑑賞の分野も重きが置かれておりますけれども、日文のほう扱いが多くて指導しやすいかなということ、先生方が指導しやすいかなということを感じました。それから同様に造形遊びが日文のほうが多いのもいいかなというふうに考えております。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 先ほど白川委員がおっしゃったように、二社のつくりが似ていて本当に迷うところなんですけれども、例えば開隆堂のほうは、こちらの調査結果報告書にもありますが、日光の移動教室で学ぶことが多い雲龍図とか風神雷神、あと日光彫り、日光彫りなどは体験するところはあると思うので、そういうところが載っているというのは非常に親しみを持ってやれるんじゃないかなというふう

うな点でいいかなと思うんですけども、日文のほうは、美術館に行こうというところがありまして、開隆堂は美術館を楽しむというところがあるんですが、日文のほうはより丁寧で、昭島には今美術館がないわけなんですけれども、そういった所にも出かけて行こうというような気持ちに、より美術の世界との触れ合いという意味でも、そういうところが丁寧に書かれていたほうがいいかなとも考えました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。  
それでは、図画工作の教科用図書につきまして無記名投票をお願いいたします。  
（投 票）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の報告をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 図画工作の結果をお伝えいたします。  
開隆堂出版株式会社、1票。  
日本文教出版株式会社、4票。  
以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がございました。図画工作につきましては、日本文教出版株式会社が多数のため同社を採択いたします。  
続いて、家庭科の教科用図書について、審議、採択を行います。御意見のある委員の方はお願いいたします。

○委員（紅林由紀子） 私は、開隆堂のほうがいいかなというふうに感じました。理由は、全体的な構成は同じような形になっているんですけども、開隆堂のほうは単元の始まりに、「何とかかなのかな」とか、「何とかはなんでだろう」というような投げかけから入っているというところが非常に好ましいというふうに感じました。  
東京書籍のほうは、「何とかしよう」というふうにやるところから入っているというふうなところがあると感じましたので、そういう構成がいいなというふうに思うのと、あと調理の際の片付けなどが、片付けの仕方などがイラストなので詳しく書いてあるところなどがいいと思いました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（白川宗昭） 私も両方本当に素晴らしいと思うんですけども、東書のほうが全体的見通しを持って、持ちながら勉強しやすいというか、そういうふうな感じを持っております。それから、伝統文化、昭島に適しているかということですけども、伝統文化、単元ごとに細かく味噌汁とか、いろんなことで細かく載っているんですけども、開隆堂のほうはまとめて最後のほうに載っているというところがあるので、どちらかというとも単元に即して教えていくほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。  
それから、39ページと書いてありますけれども、品質マークとか環境マークと

というのがいろんなマークがありますけれども、一覧表でたくさん載っているんですね。そういうのも、これから生活していく上で大事なことだと思いますのでいかなという感じを持ちました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。それでは、家庭科につきまして無記名投票をお願いいたします。

（投 票）

○教育長（山下秀男） それでは、投票結果の報告をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 家庭科、結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、4票。

開隆堂出版株式会社、1票。

以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。家庭につきましては東京書籍株式会社が多数のため同社を採択いたします。

続きまして、体育の教科用図書について審議、採択を行います。委員の皆様の御意見ををお願いいたします。いかがですか。

○委員（紅林由紀子） 私は光文書院の教科用図書がいいというふうに感じました。まず、先ほどの先生方の報告の中にもありましたけれども、導入のところで4コマ漫画で学ぶ中身、どうしてこれを学ぶのかというようなことがわかりやすく書かれていて、子ども達取り組みやすいのではないかなというふうに感じました。それと、一番最後のページのところに、「ともに生きる社会のために」というようなことで、いろいろな、例えば妊婦さんとか障害を持った人とか、そういうような方々がどういうものを持っていて、例えばマークとか、そういう人たちとも一緒に生きていくんだよというような部分も非常に好ましいと感じました。あと、発展的な資料が豊富で、今の時代に知っていてほしい、そういった資料がたくさん収められているので、とてもいいんじゃないかなというふうに感じました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（石川隆俊） いわゆる思春期の教育、つまり性成熟の問題、これはどの本も触れているんですが、先生が教える時にやっぱりよくわかりやすいこともあるし、あんまりリアルでも困るし、その辺が難しいらしいんですが、教科書5、6ページにわたって長く具体的に触れているんですが、例えば一つの例ですけれども学研なんかは、割合に教えやすいかなというふうに思います。これはかなり先生の個人のペースとなるかもしれませんが、最近は非常に詳しいと思います。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、体育の教科用図書につきましての無記名投票をお願いいたします。

(投 票)

○教育長（山下秀男） それでは、投票結果の報告をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 体育・保健領域、結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、0票。

大日本図書株式会社、0票。

株式会社文教社、0票。

株式会社光文書院、4票。

株式会社学研教育みらい、1票。

以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。体育につきましては、株式会社光文書院が多数のため同社を採択いたします。

続いて外国語の教科用図書について審議、採択をお願いしたいと思います。委員の皆様の意見をお願いいたします。

○委員（白川宗昭） 先ほども校長先生の方にお話を伺いましたけれども、やっぱり単語帳が分冊になっているところがありました。非常に私個人の意見かもしれませんが、昔を思い出して、そんなものをパラパラとめくるのがすごく教科書の本を読むより面白かったみたいな感じを持っていますので、それがあったほうがいいかなと。校長先生も先ほどそんなようなお話がございましたので、その辺がいいかなと一つ思いました。それからあと5年生、最初に5年から入っていくわけですけれども、最初の出だしですね、のところで、英語ができるようになったら未来が広がるよという問いかけがあって、絵が載っているんですけども、すごくこれは導入部分としては、私は印象としてすごくいいんじゃないのかな、目に訴えていいかなというふうに思います。それからあとは単元ごとにゴールがしっかりと見えるような構成になっているというような御指摘もありましたけれども、まさにそのとおりだなというふうに思いました。

あと光村も、世界のあいさつというのでそこから始まるんですけども、これも本当にいいかなというふうに思っております。まだ若干、迷っているところでございます。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（氏井初枝） 外国語活動だったものが、次年度から教科になるということで、どのような教科書ができるのかなということで、とっても興味深く拝見いたしました。その中で自分の思っていたよりも内容が、レベルが高いなというのが第一印象でした。今までは話すとか聞くということが中心だったんですけども、教科になることによって読むとか書くということが増えてきて、子どもたちがほかの教科もいっぱいある中で、また英語でそういうのが増えてきてって子ども達の負担にならないかなというのがちょっと危惧されるところです。

そういうようなことから考えますと、教科書に直接書き込みができるとか、いろいろ写真とか何かで子どもが関心を持てるような教科書のつくりがよろしいのではないかなということを感じました。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますでしょうか。

○委員（紅林由紀子） 私も白川委員と同じく光村か東京書籍がいいかなっていうふうに思ったんですけども、光村は QR コードで、そのユニットのスキットというか会話が、アニメーションで見られるようになっていて、このアニメーションがとても子どもにとっては見やすく、動きの絵と耳で聞く会話と、そしてそれに合わせた必要なキーワードとなるような単語とか会話の実際がテロップで出るという、その目と耳と合わせてそれを確認できるという意味で、学びやすいのではないかなというふうに感じました。そして、全ユニットがホップ、ステップ、ステップ1、ステップ2、ジャンプ、そして最初にゴールが設定されていて、学習が見通しを持ってすすめられるのではないかなというふうに感じました。

東京書籍のほうは、エンジョイ・コミュニケーションというところで実際に会話してみようみたいな感じになるわけなんですけれども、そう言ってもなかなか慣れない子はやりにくいと思うのですが、その具体的な手順が一部分だけこういう順序で進めようみたいなところが詳しく書かれて具体的に示されているので、そういうことが苦手な子も取り組みやすいのではないかなという点がいいのではないかなというふうに感じました。

○教育長（山下秀男） ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは外国語の教科用図書につきまして無記名投票をお願いいたします。  
(投 票)

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の報告をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 外国語の投票結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、4 票。

開隆堂出版株式会社、0 票。

学校図書株式会社、0 票。

株式会社三省堂、0 票。

教育出版株式会社、0 票。

光村図書出版株式会社、1 票。

株式会社新興出版社啓林館、0 票。

以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

外国語につきましては、東京書籍株式会社が多数のため同社を採択いたします。

続いて、道徳の教科用図書について審議、採択を行います。委員の皆様の意見をお願いいたします。

○委員（紅林由紀子） 私は、道徳は東京書籍がいいのではないかなというふうに思いました。各社、振り返りのような形でどの教材が、お話がよかったかみたいな形で、そこで何を間違ったかみたいなことを書くようになっているんですけども、やはり書く分量が多いと、書くことが苦手な子はそこにすごく時間がかかってしまって、道徳の本来の目的である考えを深めるとか、心を磨くといったところに時間が取れないのではないかと、あるいは道徳が嫌いになってしまうのではないかと、いうふうにも感じますので、東京書籍は、学期ごとに気に入ったお話のことを一言書くような、書く負担が少ないという意味で、いいのではないかと、いうふうに思いました。そして教材に多く児童作文を扱っているというところも好ましいというふうに思いますし、あと話し合いをするという、ちょっと話し合ってみようみたいなところが最初にあって、話し合うための練習みたいな形、予行演習みたいなところを取り入れているところもいいのではないかと思います。

あと、お話の中にはドラえもんのこととかちびまる子ちゃんが出てきたりとか、子どもが親しみを持って学べる、そしてまた6年生だったと思うんですけども多摩川の自然を守るというようなことで、タマゾン川という題名の話が載っていますが、外来生物に日本の古来の生物が追いやられてしまう、自然を守るというようにいいお話が載っているの、東京書籍がいいのではないかなというふうに思いました。

○教育長（山下秀男） 氏井委員。

○委員（氏井初枝） いじめ防止とか情報モラルということが現代的な課題だなというふうに思っております。そのことに関しましてはどこの会社ももちろん扱われているわけなんですけれども、東書では、目次とか見出しにもそれが明記されていて、より一層力を入れているというような印象を受けました。

○教育長（山下秀男） ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

○委員（石川隆俊） 道徳というのは押しつけるものではなくて自然に学ぶものだと思いますけれども、その中にはいろんなストーリーがたくさん出てくる、特に昔、いわゆる偉人伝と言いますか偉い人の伝記がいっぱい出てくるんですが、結構私も読んで面白いものがたくさんありました。そういう意味では、ストーリー性があるもの、それはかなり好みがありますので、共通の人が出てきますし、そうじゃないのも出てくるんですけども、そういう意味で私はこれを調べるときに、むしろ自分の興味で読みました。

○教育長（山下秀男） 白川委員。

○委員（白川宗昭） 私も東京書籍がいいかなというふうに思っていて、先ほど先生方もおっしゃっていたのと同じような意見でございますが、「東京大空襲 かけがえのない命」というところで東京大空襲を載せているとか、「ふるさといいところ探し」

なんていう3年生ですけども、地元、それぞれの地域でいいところ探してみようじゃないかという問いかけ、こういうのはほかにはなかったように思いますので、その辺を評価しております。以上です。

○教育長（山下秀男） それでは道德の教科書につきまして、無記名投票お願いいたします。

（投 票）

○教育長（山下秀男） 投票結果の報告を事務局からお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 道德の結果をお伝えいたします。

東京書籍株式会社、5票。  
学校図書株式会社、0票。  
教育出版株式会社、0票。  
光村出版株式会社、0票。  
日本文教出版株式会社、0票。  
株式会社光文書院、0票。  
株式会社学研教育みらい、0票。  
廣済堂あかつき株式会社、0票。  
以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。道德につきましては、東京書籍株式会社が多数のため同社を採択いたします。

小学校の教科用図書の採択につきましては、すべての種目の採択が終了いたしましたので、改めて採択結果の報告を事務局からお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） それでは結果をお伝えいたします。

国語「国語」 光村図書出版株式会社  
書写「書写」 光村図書出版株式会社  
社会「小学社会」 教育出版株式会社  
地図「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 株式会社帝国書院  
算数「新しい算数」 東京書籍株式会社  
理科「新しい理科」 東京書籍株式会社  
音楽「小学生の音楽」 株式会社教育芸術社  
図画工作「図画工作」 日本文教出版株式会社  
家庭「新しい家庭」 東京書籍株式会社  
体育「小学保健」 株式会社光文書院  
外国語「NEWHORIZON Elementary」 東京書籍株式会社  
道德「新訂新しい道德」 東京書籍株式会社  
以上でございます。

○教育長（山下秀男） 令和2年度に昭島市立小学校で使用する教科用図書につきましては、事務局の報告のとおり採択いたします。

次に、特別の教科道徳を除く、中学校で使用する教科用図書の採択を行います。事務局から説明がありましたとおり、令和2年度に昭島市立中学校で使用する教科用図書につきましては、平成27年度に教科用図書選定資料作成委員会が作成いたしました「平成28年度使用教科用図書選定資料作成委員会調査結果報告書」に基づき採択を行うことでよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） 異議なしと認め、令和2年度に昭島市立中学校で使用する教科用図書につきましては、平成27年度に教科用図書選定資料作成委員会が作成した「平成28年度使用教科用図書選定資料作成委員会調査結果報告書」に基づき採択を行います。それでは御意見をお願いします。

紅林委員。

○委員（紅林由紀子） 昨年、小学校がこういう形を取ったと思うんですけども、本来でしたら昨年は小学校の採択をする時期だったんですが、この新学習指導要領に合わせて今年、また採択しなければいけないということで、1年延長という形を取ったと思うんですが、この中学校に関しましても、また来年新しい学習指導要領に合わせた教科書を採択しなければいけないということになりますので、今年については、前回採択したのと同様の教科書を使うということで、採択するというのでいいのではないかと私は考えたのですが。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

今の御意見を伺いますと、中学校の特別の教科道徳以外の教科用図書につきましては、本年度使用している教科用図書と同一の教科用図書を採択することが適切であるという御意見だったと思います。

ここで確認のため、事務局から今年度、中学校の特別の教科道徳以外で使用している教科用図書の報告をお願いしたいと思います。

○指導課長（吉成嘉彦） 本年度、令和元年度に使用している教科用図書について御報告申し上げます。

国語「国語」 光村図書出版株式会社

書写「中学書写」 教育出版株式会社

社会（地理的分野）「社会科中学生の地理世界の姿と日本の国土」株式会社帝国書院

（歴史的分野）「新しい社会歴史」 東京書籍株式会社

（公民的分野）「新しい社会公民」 東京書籍株式会社

地図「中学校社会科地図」 株式会社帝国書院

数学「数学の世界」 大日本図書株式会社

理科「理科の世界」 大日本図書株式会社

音楽（一般）「中学生の音楽」 株式会社教育芸術社

(器楽)「中学生の器楽」 株式会社教育芸術社  
美術「美術」 日本文教出版株式会社  
保健体育「中学保健体育」株式会社  
学研教育みらい技術・家庭(技術分野)「新しい技術・家庭技術分野未来を創る  
Technology」 東京書籍株式会社  
(家庭分野)「技術・家庭 家庭分野」開隆堂出版株式会社  
英語「TOTAL ENGLISH」 学校図書株式会社  
以上、9教科15種目でございます。

○教育長(山下秀男) それでは、ただ今、事務局から説明があった9教科15種目の教科用図書を令和2年度に昭島市立中学校で使用する教科用図書として採択することによろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(山下秀男) 異議なしと認め、令和2年度に中学校で使用する「特別の教科道徳」以外の教科用図書については、事務局から説明のあった教科用図書を採択することといたします。

続きまして、中学校の「特別の教科道徳」で使用する教科用図書は、事務局から説明のあったとおり、令和元年度と同一の教科用図書を採択することによろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(山下秀男) 異議なしと認め、令和2年度に中学校の特別支援学級で使用する教科用図書は令和元年度と同一の教科用図書である「新しい道徳」東京書籍株式会社を採択するものといたします。

最後に、特別支援学級で使用する教科用図書の採択を行います。特別支援学級設置校の書く校長から説明がありましたように、令和2年度に小中学校の特別支援学級で使用する教科用図書は一覧表に載っているものを採択するという事で御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(山下秀男) 異議なしと認め、令和2年度に小中学校の特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、この議案の参考資料3に記されております教科用図書を採択することといたします。

以上で、議案第13号の審議を終了いたします。本日予定した議事につきましては以上になります。

それでは最後に日程6の次回の教育委員回定例会の日程について説明をお願いいたします。

○庶務課長(加藤保之) 令和元年第9回定例会は、令和元年9月20日金曜日、午後2時30分から市役所庁議室において開催いたします。

○教育長（山下秀男） 次回の定例会につきましては、9月20日、午後2時30分から市役所庁議室において開催いたしますのでよろしくお願いいたします。

なお、傍聴の方におかれましては、議案第13号参考資料につきましては回収をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それから向かって左手の出口よりご退席を頂きたいと思います。

長時間にわたりどうもありがとうございました。それでは以上をもちまして本日の日程はすべて終了いたしましたので、令和元年昭島市教育委員会第8回定例会を閉会といたします。皆さん、大変お疲れ様でございました。

以上

年 月 日

署 名 委 員

2 番 委 員

3 番 委 員

調 整 担 当